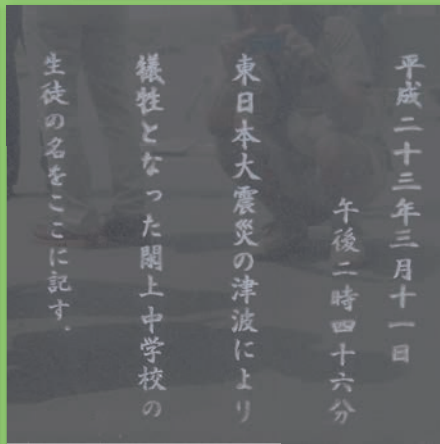


Tokyo Dental College Alumni Association



目 次

グラビア ふるさと自慢

会員往来

いなげ

巻 頭 言	1
地域理事の声	2～3
お知らせ	4
重点事業へのアプローチ	5～7
会 務	8～12
東日本大震災対策部会	13～14
ゴルフ大会	15～17
保 険	18～20
学 術	21
母校だより	22～24
支部のうごき	25～32
クラス会だより	33～34
OB会・グループ・サークルだより	35～37
庶務日誌	38～39
逝去会員	39
投稿規定	40
いいんかいしょうかい	41
へんしゅうこうき	42

ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

神々が住まうまち伊勢 ～一生に一度はお伊勢参りへ～

三 重 県



皇大神宮（内宮）の入口：鳥居と宇治橋



豊受大神宮（外宮）の正宮：この他に豊受大御神の荒御魂を祀る多賀宮、土宮、風宮などの別宮があります。

生まれも育ちも「伊勢」の私は、大学進学でこの地を離れるまで自分の住んでいるところが特別な観光地であることに気づいていませんでした。実際、通っていた幼稚園、小学校から徒歩5分程のところに伊勢神宮があり、授業の写生や、放課後の釣りや木登り遊びも神宮内があたりまえでした。この頃の私にとって、伊勢神宮は「近所の大きな公園」程度の認識だったと思います（ちなみに今は釣りも木登りも禁止されています、もしかすると当時も駄目だったような気もしますが）。

今回は、私のにわか知識で皆さ

んが神宮に興味を持っていたとき、来勢するきっかけになれば私としてもとても嬉しいことです。

そもそも伊勢神宮（正式には神宮）とは、内宮と外宮の2つの正宮を中心にそれぞれの別宮とその周囲に点在する摂社・末社・所管社の125社の総称です。内宮は日本人の総氏神様で皇祖神でもある天照大御神が、外宮は天照大御神の御饌の神、すなわち食事の神様である豊受大御神が祀られています。現在では内宮は天の神様、外宮は生活の守り神として地の神様と表現する方もいます。以前は伊勢志摩観光コースのひとつ

として端折って内宮だけを参拝する方が多かったのですが、近年は正式に外宮、内宮の順で参拝する方が増えてきています。

この「ふるさと自慢」の原稿依頼を引き受けた理由に、今年、神宮が第62回式年遷宮の年を迎えているからということがあります。この神事は字のごとく「宮を遷す」すなわち神様のお引越し行事です。20年に1度、左右の御敷地に御社殿を交互に建て替え、その中の御装束・神宝もすべて新しくします。これを神道では「常若」の精神といいます。内宮のはじまりは紀元前4年となっていますか



あらまつりのみや 荒祭宮：皇大神宮の10ある別宮の中の第1別宮。天照大御神の荒御魂を祀っています。左側が現在の宮，右側が新しい宮。その他、風日祈宮の別宮があります。別宮までが20年に一度建て替えられます。



皇大神宮の現在の正宮：石階から先は撮影禁止なので、わかりにくくてすみません。



おきひき 御木曳（川曳き）：御用材を両宮に運ぶ遷宮行事のひとつ。陸を運ぶ陸曳きもあります。

に約30の祭儀が執り行われています。一般の人も参加可能なものに、新御社殿建造の御用材を搬入する「御木曳」行事や正殿が建つ御敷地に敷きつめる白石を奉獻する「御白石持」行事などがあります。今回の式年遷宮ではもう終了していますので、ぜひ20年後の第63回の際には「一日神領民」として参加していただくのも楽しいかと思えます。また、クライマックスの「遷御」は内宮では10月2日、外宮では同月5日の夜に行われます。

ら2000年の歴史の中でこの神事は約1300年余り続いていることとなります。なぜ20年周期なのか、これについては諸説がありますが、建築様式「唯一神明造」の技法や御神宝を新調する際の匠の技術を次世代に伝承するためではないかと私は考えています。

この遷宮行事については最近になってメディアにも大きく取り上げられていますから御存知の方も多いことと思いますが、実は8年前から始まっています。平成17年の「山口祭」を皮切りにこれまで

今年中に来勢していただければ、若々しく瑞々しい新御社殿と重厚で威厳のある旧御社殿の両方を左右にみるができると思います。

それから、来年以降ももし神宮を参拝されるのであれば朝早い時間をお勧めします。朝は5時から参拝が可能です。静寂の中、玉砂利を踏みしめる音が響き、どこか



皇大神宮の新しい正宮：石階の頭上の屋根は遷御の際の回廊で、遷宮の後取り払われます。今しか見られない貴重なものです。



みしねのみくら 御稲御倉：天照大御神のお供え物を入れておく倉。外幣殿、忌火屋殿などたくさんのお倉があります。

らともなく届く森の匂い、空気が重く皮膚に纏わり付くようなあの感覚はなんとも表現しがたく、正宮に近づくにつれ徐々に身を清められていくようで自然からエネルギーを頂いているようです。

その他、神宮の周囲には昔の町並みを再現したおはらい町があり、その中央に位置する「おかげ横丁」もなかなかの風情です。かの有名な「赤福」本店もここにあります。毎月1日だけの限定発売「朔日餅ついたちもち」に当たればラッキーです。

それから、伊勢は神宮だけではありません。リアス式海岸に代表される伊勢志摩国立公園の景色、それは素晴らしいものです。伊勢志摩スカイラインや鳥羽のパールロードが有名ですが、私のお気に入りには「横山展望台」のもの、それは絶景です。

あとは、御木本真珠島の見学もお奨めです。海女の素もぐりの実演や、真珠養殖のしくみの説明やデモを行っています。興味深いのは真珠の核入れや取り出しの時の器具がとても歯科の手用切削器具や充填器に似ていることです。私



おはらい町：昔の町並みを再現した通り。さすがに朝6時だと人通りは無く、お店も開いていませんでした。唯一、この先にある赤福本店だけが5時開店です。土日の9時頃には銀座のホコ天みたいに、人で溢れかえります。

の祖父の話では、ミキモトの創始者である御木本幸吉と地元の歯科医師が共同で開発したとか、一見の価値ありです。

最後は食べ物について、伊勢志摩は食の宝庫です。言わずと知れた松阪牛は隣町、海の幸は伊勢海老に鮑や雲丹、漫画「美味しんぼ」にも登場する佐藤養殖場に代表される無菌牡蠣、実は最近まで



赤福本店：写真右の釜を使用し薪でお湯を沸かし、美味しいお番茶を入れてくれます。



伊勢うどん：コシのないふわふわの太いうどんと真っ黒な少量のつゆだけのシンプルなのが本来の伊勢うどん。たっぷりのきざみ葱と少々の一味をかけるのが地元流

下関まで海上輸送して水揚げされていたという噂の安乗河豚あのり、と高級食材が目白押しです。ですが、この伊勢の地でしか食せないものに日本初のファーストフード（私が勝手にそう呼んでいます）「伊勢うどん」や鰹のづけのバラ寿司「てこね寿司」などがあり、こちらもお奨めです。

神々が宿る伊勢の地で心清め、美味しいものをいただき、日々の疲れをいやし、生きる元気を持ってお帰りいただけることと思います。

ぜひ、一度伊勢においでくださいませ。

写真提供：月兎舎
(平成4年卒 中西以穂)



横山展望台：伊勢志摩国立公園内にあるリアス式海岸の英虞湾。左中央に見えるゴルフ場が、日本で唯一開催されるアメリカ女子ツアー公式戦、ミズノクラシックの会場である賢島C.Cです。

会 員 往 来

市川 豊先生のご紹介

市川 豊先生は、77期（昭和47年）にご卒業され、現在東京都板橋区でご開業されています。常に笑顔を絶やさず温厚で、私たち後輩にも優しく接して下さいます。今回の記事によりその原点が茶禅一味の茶道にあると感じられました。私も学生の頃、市川キャンパスに保存されていた血脇先生ゆかりの血脇会館の和室で、茶道部が活動していたことを思い出します。

長い歴史を持ち、禅の精神を“道”として具現化した茶道の本質を楽しみ、極め続ける市川 豊先生をご紹介します。
(広報委員会 小池 修)

「和敬清寂」「日々是好日」「放下着」…茶禅一味の茶道

市川 豊（昭和47年卒）



昭和41年はじめての夏合宿磯長にて

昭和41年、東歯に入学してはじめて軟式テニス部に入部しました。練習後、同級生の誘いで茶道部に立ち寄ったのが茶道を始めるきっかけとなりました。

茶道部に入部してすぐの夏の合宿が、大阪府：磯長山・永福寺（聖徳太子御廟）で8月の最後の週の暑い中一週間行われました。ここでの合宿が、私が茶道を一生続ける基を色々体験いたしました。仏教、禅宗（臨済宗）との出会い、茶禅一味を味わう事ができました。茶道部の稽古は、昭和24年から進学課程の校舎の近くの村田宗信先生（裏千家）にご指導をいただいておりますが、夏合宿は、毎年長野県飯田市にお住まい

の中島韶平先生でした。裏千家流ではありませんが一見、どこかのお坊さんかなと思える先生でした。小学校の校長先生を退職し、若いころから修行されていた宗教的な茶道を指導されておりました。中島先生に出会い、合宿生活を共にし茶道の「道」を学び、心の茶に興味を持ちました。茶道の点前の順序と形だけにとらわれず、

「主客一体」相手の身になって考えられる茶道を学びました。

初めての夏合宿は、まだ、点前もろくに出来ない新生にとって衝撃的な出来事でした。広い50畳以上ある畳敷きの部屋が我々の稽古部屋でもあり、寝室（男と女は座卓の境界線）でもあり、早朝のお勤め、食事の時の般若心経の読経、まるで禅道場の様でした。中



茶道会館での茶会

高先生は、茶道や宗教的な講義をなされ、茶禅一味の一週間でした。

中島先生に出会える夏合宿は鎌倉の建長寺、比叡山下の日吉大社、飯田市の長久寺・竜門寺、そして卒後、京都の建仁寺禅居庵、高崎の少林寺、秩父の法雲寺、中島先生と金毘羅参りをした香川県の海岸寺等々、思い出の多い寺院です。数年前、奈良への旅の途中、昭和41年の合宿所、磯長山・永福寺へ妻と尋ねてみました。周囲はまるっきり変わりナビがないと行けませんでした。寺院の中は、40数年前の朝の供茶をした聖徳太子の墓前は全く変わっておらず、とても懐かしく当時の事を思い浮かべました。

益々、茶道の魅力に引かれ、裏千家に直接、「男の良い先生を紹介してください」と電話をしたら、女性のすばらしい先生も大勢いらっしゃいますとのお返事を頂きました。家元が、働いている方や学生の為に直属の市ヶ谷教室を作り、そこへ入門いたしました（進学課程2年生時）。それから、クラブ活動と裏千家の教室に通いました。

茶道部は、初めのうちは予科の2年のみの部活でしたが、昭和37年頃より学部までの6年間の部活になりました。市川の予科では、血脇記念会館の和室での稽古で、水道橋の学部では和室がないため、地下の薄暗い異様な匂いのある部屋でPタイルの上にゴザを敷き一生懸命稽古をした思い出があります。稲毛に移転し、千葉校舎では、炉の切ってある和室で6年間稽古をする環境が整ってしま

したが、今度水道橋にもどり、稽古をする場所がどうなるか心配です。

そして、昭和47年、卒業・歯科医師免許証と同時期に茶名「宗豊」の許状を家元からいただきました。

その後、昭和51年に板橋で開業した時に、ありがたいことに中島先生より、ご自身で柿の木を彫って作った「静寂」の掛け物をいただきました。裏には「平点前をしつつ良きご家庭を作られ良き歯科医師になられ、人たるの道をつくされんことを祈ります」と記してありました。



開業祝い 中島先生 作

32歳の時に、準教授の許状を頂き、裏千家茶道の組織の中に入り東京第二支部の青年部長になり、家元主催の全国大会、青年講習会に参加し、全国の色々な職業の若い茶人との交流がありました。

それから、淡交会親支部の常任幹事になり、色々な所での、茶会、家元の献茶式、家元の研究会に参加し、中野サンプラザの舞台の上で、点前をさせていただきました

した。

家元は、日本の伝統文化茶道を少年少女というスローガンのもとに、代々木の元オリンピック選手村で文部省から援助をいただき、少年少女（小中学生）の茶道教室を開講致しました。その教室の講師をしたり、都立飛鳥高校の茶道の授業や、短大の茶道部の講師をしました。



椿山荘 東京地区大会お家元と

同級生の紹介で、イタリア大使館で、日本の伝統文化の茶道の体験をしたいという依頼を頂き、大使館でお点前をし抹茶を美味しく飲んでいただきました。

又、知人からの紹介で、オーストリアの歯科大学のAles Celar (Bernhard-Gottlieb-University Dentalclinic) 教授は、禅に非常に興味があり、茶禅一味の茶道の体験をしたいということで、我が家の茶室に家族と共にいらっしゃいました。露地から入り、蹲（つくばい）をつかい、心身を清め、にじり口から席入りを体験してもらいました。小学生のお子さん、奥様も楽しそうに日本の伝統文化を味わい、不思議そうな顔をされ



オーストリアの教授と

ていましたが、良い体験をしたと喜んでいただきました。

又、銀茶会という、銀座の歩行者天国の道路で茶道の点前のデモンストレーションを行いました。

我が家では、孫を相手に、お点前を教えたり、座禅をしたりしております。

還暦の平成19年にお家元から、教授の認定を頂きました。

現在は、「茶事」を目的とした、茶道教室を行っています。

茶事とは、茶の湯において懐石、濃茶、薄茶をもてなす正式な茶会です。約4時間程かかります。お茶会というと、大勢の人が集まり、煌びやかな服装でお茶を楽しむ会を想像しますが、本来の茶会は、気心の知れた数人で炭手前を



孫と

し、湯の沸くまで、一汁三菜を食べ、酒をのみ、美味しいお菓子を食す。連客一同で濃茶を頂く日本の食事作法です。

「お・も・て・な・し」の心です。

日頃の稽古も、この茶事が出来るよう、炭手前、濃茶、薄茶点前を徹底的に稽古しています。

現在の茶道の原型を完成させた千利休は茶道の心得を「四規七則(しきしちそく)」と説きました。

四規 「和敬清寂」、この四つの文字の中には、すべてのお茶の心がこめられているといわれています。

「和」とは、お互いに心を開いて仲良くするという事です。

「敬」とは、尊敬の敬で、お互

いに敬いあうという意味です

「清」とは、清らかという意味ですが、目に見えるだけの清らかさではなく、心の中も清らかであるということです。

「寂」とは、どんなときにも動じないことです

[利休七則]

茶は服のよきように点て、
炭は湯の沸くように置き
花は野にあるように
夏は涼しく冬暖かに
刻限は早めに、降らずとも
雨の用意、相容に心せよ

この言葉は、千利休がある弟子から「茶の湯とはどのようなものですか」と尋ねられたときの答えでした。そのとき弟子は「それくらいのことなら私もよく知っています」といいますと、利休は「もしこれができたら、私はあなたの弟子になりましょう」といったそうです。

あたりまえの事が、あたりまえになかなかできないのが人間です。

茶道のお蔭で、色々な方々と出会い、一期一会の大変有意義な経験をさせていただいております。これからも、楽しい日々を暮らせるように、心のこもった美味しいお茶を点てていきたい。



銀茶会



孫と座禅



我が家の稽古

い な げ

(昭和56年卒業 橋本貞充 写真 広報部 佐々木葉子 記)



秋の風景
大学のキャンパスとはおもえないくらい
きれい・・・



東門のまえにある銀杏並木
春には桜のアーケードになって
Busを待ちながら
季節のうつりかわりが感じられる
なつかしい場所



厚生棟の前
中庭の夕暮れ
秋になると影が長くなって・・・
学生のころには
しみりと秋を感じる余裕は
なかったけど・・・



玄関の入り口
季節のひかりが反射する
歴史を刻む定礎の石板・・・

同窓会120周年に向けて ～同窓会アカデミア構想～



事業推進部常任理事

小林 慶 太

若手同窓の同窓会離れが懸念されている。卒業と同時に同窓会会員となり退会規定はないのであるから、同窓会離れと言っても会員数が減少することではない。しかし、現実には支部未加入による同窓会離れが指摘され、課題となっている。

日本歯科医師会に目を向けても、これから歯科医師会を背負うべき年代の会員数が目に見えて少ない状況である。

同窓会に帰属意識を持たない会員の増加は、結果的に日本歯科医師会未入会者増加による組織力の低下を招き、延いては歯科医療の地盤沈下を誘引することとなる。国民の歯科口腔保健を担う組織が確固たるものでなければ、歯科保健行政は迷走し歯科医療従事者として、歯科医療に誇りと夢の持てる将来を期待することは出来ないであろう。

平成24年矢崎執行部の発足と共に、事業系委員会である保険、学術、若手ネットワーク、大学連携、シンクタンクの各委員会が事業推進部として活動している。

これまで、若手同窓の同窓会離れへの対応を目的として、「若手支援セミナー」「新進会員の集い」「卒業5年目のクラス会支援」が実施された。若い同窓が同窓会に関心を示し、同窓会への意見を聞く機会を設けることはできたが、その効果は期待に十分応えたとは言えないのが現状である。

この2年間の学術事業についてみると、TDC 卒業後研修セミナーと専門性の高いインプラントセミナーを開催してきた。なかでも、卒業後研修セミナーにおいて、若手・臨床研修医向け学術セミナーの開催、臨床研修医割引受講料の設定など、卒業間もない同窓が参加しやすい内容と受講料を提供し、若手支援を行っているが目に見えるような効果は現れてはいない。

周知のように、TDC 卒業後研修セミナーは1970年代の歯科セミナー黎明期に、ポストグラディエートコースの先駆者として始まった。生涯研修の支援として歯科医師にとって必要な知識と技術の修得を目指して、時代に応じたセミナーを企画開催し今日に到っている。

しかし、臨床研修医制度の導入、各種歯科研修セミナーの林立、歯科医師会の組織力と公益性の向上を目的とした、大学、日本歯科医師会、同窓会が連携した新たな歯科医師研修システム構想など、歯科研修環境も大きく変わり、これまでの学術事業の目的を見直す必要性が感じられている。

一方、同窓会執行部では、平成27年に同窓会120周年を迎えるにあたり、これまでの事業を見直すことを目的とし、同窓会アカデミア構想が検討されてきた。この同窓会アカデミア構想とは、優れた歯科医師として国・行政、歯科医師会、地域医療で活躍し、リーダーとなれる人材の育成とその体制作り。品格のある歯科医師を育む環境の醸成を、同窓会事業として進めるものである。

今年も、本学は国家試験合格率の全国トップを飾ることができた。大学教育においては教職員一丸となり、歯科医師のスタートラインに立つための国家試験合格に向け、優秀な卒業生を送り出している。

国家試験に合格し歯科医師として第一歩を踏み出した彼らが、専門職として歯科医学と歯科医療の発展に寄与し、医療倫理を実践するためには専門知識の修養と「品格の涵養」がとても重要である。同窓会事業としてその場を提供することこそ、学術事業の新たな目的となる。

血脇守之助先生の「歯科医師たる前に人間たれ」の精神を継承する、本学同窓の魂をまさに具現化することでもあろう。

そこで、同窓会事業の転換として同窓会アカデミア構想を提案したい。若手・新進会員の臨床力向上を目的としたものから、最新の知識と技術を修得するセミナー、人間性を高める素養としてリベラルアーツを身につけ、人材を育てる場と情報の提供である。

歯科医療界の地盤沈下を止めるためにも、若手からベテランまでの全同窓が参加し享受できる、同窓会アカデミア構想の基幹を確立し体制作りをすることが、同窓会の新しい使命ではないだろうか。

120周年を迎える平成27年、同窓会は歯科界の魁として、新たな一步を踏み出そうとしている。

地域理事の声



長すぎた地方理事のつぶやき

地域選出理事（四国） 久保田 晃

地域理事の末席を汚させていただいて14年なる。さしたるお役にも立てずに出張旅費ばかりいただいでいて、大変恐縮している。

振り返れば当時の理事会は、地域理事の出番は「地域理事報告」で、「何月何日に連合同窓会を開くから会長先生はじめよろしくお願ひします」とか、「先日はおいでいただきありがとうございます」…といった、定番の味も素っ気もないもので、それこそ、今用いられている、報告書一枚に書きこんで提出すればすむようなものであった。

常任理事の方々が会議を重ね、練りに練った末の重要案件の山に圧倒されて、不案内の地方理事が意見も、提案も出せるはずがなく、またそのような雰囲気でもなかった。これでは地方理事11人分の日当と旅費がもったいないとさえ思った。

それがいつのころからか、北海道のT先生、を皮切りに積極的な発言が見られるようになった、常任理事の方々には目障りであったろうが、それを暖かく受け入れてもらい、今の雰囲気が出来上がった…と私は思っている。任期の終わりには全員が執筆して、まとめの小冊子も作った。

地方理事の役目は、理事会で決まったこと、を速やかに支部へ伝え、必要なものは支部の意見をまとめて本部へ上げる。そして常に支部の現状、会員の意見、要望を掌握していなければならない、要するに通りの良いパイプ役を務めることであろう。

かく格好のいいことを言っている私も理屈ではわかっているもその数分の一も勤めを果たせていなくて申し訳なく思っている。

加えて、母校に対するささやかな貢献も忘れてはならない。東歯の優秀さを広く世間へ知らしめ、目を向けさせて優秀な人材確保に一役買えたらうれしい。家族会などでお子さん方に会うと「きみいお父さんの学校へいくかい！」とそれとなくくすぐる。「君のお父さんみたいな立派な歯医者さんになってね！」慣れたら結構うまく言えるようになるが、母校を芯から愛していないと口先だけになる。

私が受験期を控えた夏、亡父謙次郎の満州以来の朋友（ポンユウ）福島秀策元学長が24時間かけて来宇されたことがあった。お帰りの駅のホームで一言、「お父さんの学校に来なさい」といわれ、胸が震えたのを今も鮮明に覚えて

いる。

支部会員に「会報を読んでいただくようお願い」するのもわれわれの重要な仕事である。同窓会の結束、融和は全ての会員が情報を共有すること、その早道が会報。せつかくの広報部のご苦勞を無駄にしてはならない。

また最近気になることがある。高齢化と未入会会員の増加による会員の減少、当然会費収入は減り、会計担当理事は経費の切り詰めに頭を悩ませている。まずは身内からと、日当などから切り詰めるしかない。地方理事はともかく、資料が送られてくるたびに、いったい常任理事の方々は本職をやっている時間があるのだろうかかと心配するほどの膨大な資料、仕事量である。頭が下がるのである。

いくら手当てを増やしてもとても報いきれものではないが、せめて常任のかたがたの日当をこれ以上削ってほしくはない。それには会費の未収を減らし、会費収入を増やすこと。要するに地域選出理事としては、円滑な会費納入を促すことも大きな仕事の一つであることを自覚しなければならない。

回顧めいた、あまり建設的でない文になったしまった。御容赦。



懐かしい市川の進学課程時代

地域選出理事（九州） 田部 和彦

浪人生活をへて（S37年）入学した時の嬉しさはまわりの風景までが変わって見えたほどでした。入学して、まもなくの事、九州出身者は英語の平井先生の自宅で新入生歓迎会を開催して下さるとの事。埼玉県だったと思うのですが、新入生5名を先輩の皆様に連れられて行きました。美味しいすき焼と慣れないお酒を呑み交わしながら色々なお話を伺い素晴らしい時を過ごさせて頂いた事、大切な思い出でした。

数ヶ月後、九州人会という会があるので出席するよう先輩から連絡があり、会場にいったびっくりしました。医局の先生と6年生から2年生までの先輩の皆様方が部屋に入りきれない程大勢参加されていました。皆様大変楽しげにお酒を飲みながら話し合っておられました。私達新入生にもやさしくして頂きすっかり雰囲気慣れた後、二次会はクラブに連れて行ってもらったのですが当時は飲めないお酒を呑み過ぎて、天井がぐるぐる回って苦しかったのを覚えています。現在は練習の甲斐が実り人並には飲めるようになりました。

九州人会の先輩、ありがとうございました。

市川の進学課程の2年間、市川市内を酒を飲んだ勢いで仮装行列したように思うのですが定かではありません。又、体育館でクラス対抗の演劇や5～6名のグループバンド演奏等の学芸会？あの2年間は、1年、2年ともに3クラスの学園生活のせい一年上の先輩とは顔なじみになり50年以上経ても覚えています。この市川時代こそ「医者以前に人間たれ」の東京歯科大の精神を学んだ気がします。

第41回同窓会主催全国ゴルフ大会（横浜カントリークラブ）に初めて参加しました。参加人員122

名という多くの先生方々の参加を得て盛大でした。組み合わせは同級生と25年卒、37年卒の先輩でした。お二人とは初めてお会いしたのですが、まるで昔からの知人とプレーしている様な楽しい1日でした。これも東歯卒の御陰と心から感謝します。

卒業後は、東京新宿の医療法人済民会に同級生3名と就職しました。先輩の先生方に指導して頂いたお陰で、今日あるものと感謝致しております。先輩、友達は宝と思います。若きドクターは色々な人と交際して、各自の宝を見つけられるよう願っております。



お知らせ

理事会より

- 平成25年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会が、11月17日(日)に開催されます。
- 今年は水道橋校舎新館の竣工に伴い、前年と異なり水道橋校舎新館の血脇記念ホールにて午前10時より開催されますので、ご注意ください。なお、当日は昨年秋および本年春の叙勲褒章の方々の顕彰を行います。あらかじめ、ご了承ください。

同窓会事業・行事

- 平成25年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会
と き 平成25年11月17日(日)
ところ 東京歯科大学(水道橋校舎新館 血脇記念ホール)

- TDC 卒後研修セミナー2013プログラム

卒研セミナー

No.5 実習セミナー『CAD/CAMを極める』
～初めてのオールセラミックス・支台歯
形成の基本から合着まで～
11月10日(日)

No.6 イブニングセミナー『今日からはじめる
こだわりのペリオ』
～歯根膜の臨床観察と歯周治療～
11月14日(木)

母校関係行事・案内

- 平成26年度 東京歯科大学 入学試験情報

入試日程一覧 (全募集人員128名：編入学除く)

入試制度	募集人員	出願期間 (期間内必着)	試験日	合格発表日	試験会場
推薦入学選考	約45名	平成25年11月1日 ～ 平成25年11月5日	平成25年 11月9日	平成25年 11月12日	東京会場： 東京歯科大学水道橋校舎本館
帰国子女・ 留学生特別選抜	若干名				大阪会場： TKP新大阪ビジネスセンター
編入学試験 A	若干名				福岡会場： TKP 博多駅前シティセンター
学士等特別選抜 A	若干名				東京歯科大学水道橋校舎本館
一般入試 (I期)	約50名	平成25年12月17日 ～ 平成26年1月28日	平成26年 2月2日	平成26年 2月5日	東京会場： 東京歯科大学水道橋校舎本館
大学入試センター利用 試験 (I期)	13名				大阪会場： TKP新大阪ビジネスセンター
一般入試 (II期)	約15名	平成26年2月18日 ～ 平成26年3月4日	平成26年 3月8日	平成26年 3月11日	福岡会場： TKP 博多駅前シティセンター
大学入試センター利用 試験 (II期)	5名				東京歯科大学水道橋校舎本館
編入学試験 B	若干名				
学士等特別選抜 B	若干名				

※編入学試験 A・B は、2年次に編入学

重点事業へのアプローチ

若手会員との連携

若手ネットワーク担当理事
高野 博子

若手ネットワーク委員会が、昨年より立ちあがり、若手支援セミナーや同期会開催支援、ホームページやフェイスブックでの情報伝達の確立など活動を展開しています。中でも若手ネットワーク委員会の名前の通り、全国の支部に若手支援ネットワーク担当の先生方をご推薦いただき、本部・支部力を合わせて一人でも多くの若手同窓の先生方に同窓会の事業に自主的に参加する機会を作って、同窓会の楽しさや意義を感じて頂きたいと思っています。

この度、愛媛県若手支援ネットワーク担当の先生から歓迎親睦会開催という素敵なニュースをいただきましたので、ご紹介します。若手の先生方が自主的に活動してくださるなんてとても嬉しいです。

同窓会の先輩たちは素晴らしい方々が沢山いらっしゃいます。そして惜しげもなく後輩たちの道先案内人になってくださること間違いなしです！どうぞ、120年間の東京歯科大学そして同窓会の品格を若い先生方に継承して頂き、益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

第一回愛媛県若手支援ネットワーク歓迎親睦会開催

愛媛県若手支援ネットワーク担当
兵藤 正昌

平成25年8月31日、台風接近中にもかかわらず、松山全日空ホテル桃園にて、正岡孝康先生、三好耕平先生、加藤博智先生、松本雄二郎先生、横山麻衣先生の愛媛県支部若手支援歓迎親睦会を行いました。

今回は愛媛県での若手支援ネットワーク事業として、新入の先生方に気軽に参加して頂いて支部のことを知っていただこうと比較的卒業年度の近い平成卒の若手の先生方に加え、横山洋行会長、久保田 晃先生をお招きして総勢18名で行いました。

横山会長の乾杯ではじまり、新入の5人の先生方の自己紹介、



久保田 晃先生に大学の近況などのお話、出席者全員に自己紹介と歓迎の言葉を頂き、高岡元文先生

に同窓会愛媛県支部の年間の事業について説明して頂きました。もともとアットホームな雰囲気

の愛媛県支部ですが、いつも以上に和気藹々と、それぞれの愛媛に帰ってきてからの個々の体験談などで会は盛り上がりました。新入の5人の先生方にとっても若手の集まりだからこそ気軽に話せることもあったことと思います。

最後にみんなでみかんを持って（某雑誌を意識？）集合写真をと

り、2次会へと繰り出して行きました。

今回、初めての試みでしたが開催して本当によかったと思います。若手支援ネットワーク事業として、愛媛でも卒業後帰省し開業や勤務するとき、日常の診療においてなど困ったとき気軽に相談や支援ができる環境を作り少しでも

若手の先生方のお役にたてればと思います。そして支部での事業にも積極的に参加することで、同じ東京歯科大学の同窓の仲間として、先輩は後輩を、後輩は先輩をいろいろな面で支えあえるようにできればいいと思います。



「若手支援ネットワークシステム」 全国的に活動がはじまりました。

～若手の先生方へ～

暑い夏を乗り越え、若手の先生方におかれましては益々ご活躍のことと思います。

若手ネットワーク委員会では、若手の先生方からの相談や質問に対応できるよう、全国の支部連合会とネットワークを作り、少しずつですが稼働し始めました。

「先輩の診療を見学したいけど、どこに行けば良いのかなあ？」「出身地での開業を考えているけど、相談できる先輩がいない…」「歯科医師会ってどんな組織なのかな？」「同窓の先生方から直接生の声を聞いて勉強したい」「そろそろ結婚を考えているけど、子育てをしながら歯科医は出来るの？」「クラス会を開催したいけど、どうしたら良いの？」などなど…

若い先生方の相談や質問の対応をすべく若手ネットワーク委員会が同窓会員同士の橋渡しをします。6月から始動させたシステムに現在までに次の様なアクセスをいただき、担当委員が対応しました。

アクセス内容)

- ・質問（アルバイト先の探し方）
- ・相談（同期会開催におけるアドバイス）
- ・報告（支部の若手同窓会員の積極的な活動について）です。

昨今のIT社会では、ネットから情報が簡単に検索できるようになりましたが、ネットの情報からだけでは解らないことを、現場の諸先輩と話してみませんか？

*現在、61支部、88名の若手ネットワーク担当の先生が推薦され、皆様からのアクセスをお待ちしています!!

～若い先生を暖かくご支援して下さる諸先輩方へ～

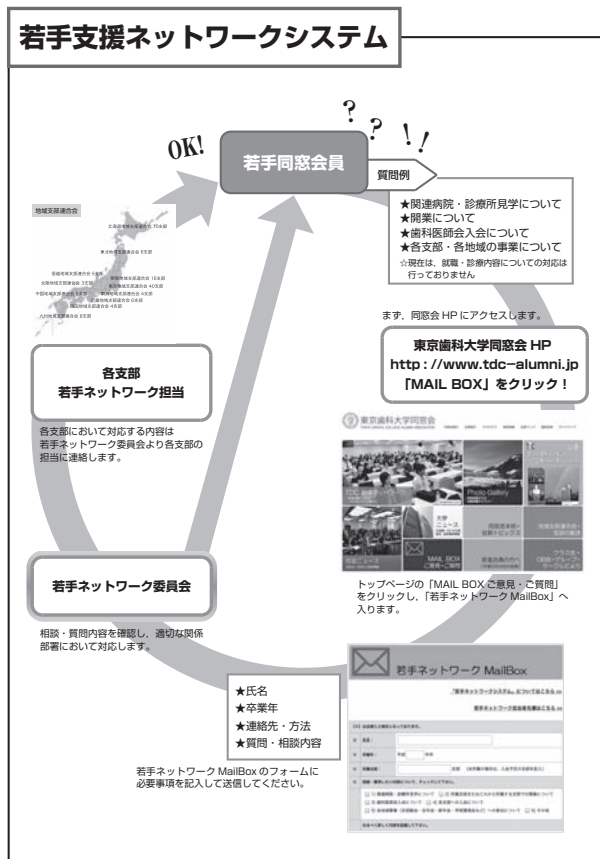
上記記載のように、若手の先生方と本部・地区同窓会とのネットワークを構築いたしました。

このネットワークは、歯科界の将来を見据えた重要なものと考えており、東京歯科大学から全国の歯科医師へ大きな輪が広がることを目指したものです。

是非、若い先生からの質問・相談への対応など、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

「若手ネットワーク Mail Box」をご活用ください！

- ①まず、同窓会 HP トップページにある「MAILBOX」にアクセスしてください。
- ②「若手ネットワーク MailBox」内のフォームに内容を記載し送信してください。(下図参照)
- ③若手ネットワーク委員会より、先生にご連絡をさせていただきます。
- ④質問・相談内容を確認し、内容にあった関係部署や団体、医療機関との調整をいたします。
- ⑤出身地など地域において対応の方が良い場合は各支部のネットワーク担当より、その他の場合には、若手ネットワーク委員会より若手の先生にご連絡をさせていただきます。



東京歯科大学同窓会 HP
<http://www.tdc-alumni.jp>
「MAIL BOX」をクリック！

若手ネットワーク MailBox

【※】は必須入力項目となっております。

※ 氏名：	<input type="text"/>
※ 卒業年：	平成 <input type="text"/> 年卒
※ 所属支部：	<input type="text"/> 支部 (未所属の場合は、入会予定の支部を記入)
※ 相談・質問したい内容について、チェックして下さい。	
	<input type="checkbox"/> 1) 関連病院・診療所見学について <input type="checkbox"/> 2) 所属支部またはこれから所属する支部での開業について <input type="checkbox"/> 3) 歯科医師会入会について <input type="checkbox"/> 4) 各支部への入会について <input type="checkbox"/> 5) 各地域事業 (支部総会・忘年会・新年会・学術講演会など) への参加について <input type="checkbox"/> 6) その他
なるべく詳しく内容を記載して下さい。	
<input style="width: 100%; height: 50px;" type="text"/>	
連絡先	
※ メールアドレス：	<input type="text"/>
住所：	<input type="radio"/> 自宅 <input type="radio"/> 勤務先 〒 <input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/>
電話番号：	<input type="text"/>

アクセスを
お待ちしております！！

*このネットワーク上では、個人情報保護の観点より、就職や実際の診療内容についての対応はいたしません。このネットワークを通して知り合った諸先輩と Face to face で相談にのってもらいましょう。

会 務

平成25年度東京歯科大学同窓会評議員会 定時総会 懇親会 日程

1. 日 時 平成25年11月17日（日）
2. 会 場 東京歯科大学水道橋校舎新館
血脇記念ホール
東京都千代田区三崎町2-1-14
3. 日 程

区 分	時 間
評 議 員 会	午前10時00分～午後4時00分
定 時 総 会	午後4時10分～午後5時00分
懇 親 会	午後5時20分～午後7時00分 (予定)



最寄りの駅からの案内図

平成25年度 東京歯科大学同窓会評議員会 (午前10時00分～午後4時00分)

1. 開 会 の 辞
1. 点 呼
1. 会 長 挨 拶
1. 来 賓 挨 拶
1. 議長, 副議長選出
1. 議事録署名人指名
1. 黙 禱
1. 報 告
 - (1) 平成25年度 会 務 報 告
 - (2) 平成25年度 会計現況報告
1. 東京歯科大学の現況
 - (1) 大学法人の使命
 - (2) 水道橋移転とこれからの東京歯科大学が目指すもの
1. 議 事
 - 第1号議案 平成24年度 経常部収支決算
 - 第2号議案 平成24年度 特別会計収支決算（同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金）
 - 第3号議案 平成24年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支決算
 - 第4号議案 平成24年度 時局対策費積立金会計収支決算
 - 第5号議案 平成24年度 財産目録
(監 査 報 告)
 - 第6号議案 財産（備品）廃棄処分

- 第7号議案 総会に係る会則の改正
- 第8号議案 役員を選任に係る会則の改正
- 第9号議案 選挙規則の制定
- 第10号議案 評議員選出の際の経過措置
- 第11号議案 共済規程の一部改正
- 第12号議案 同窓会基金および血脇記念基金に係る会則と規程の改正
- 第13号議案 過年度分会費徴収の一部中止
- 第14号議案 平成26年度 事業計画
- 第15号議案 平成26年度 入会金
- 第16号議案 平成26年度 会費
- 第17号議案 平成26年度 経常部収支予算
- 第18号議案 平成26年度 共済負担金
- 第19号議案 平成26年度 特別会計収支予算（同窓会基金, 血脇記念基金, 高山・血脇記念同窓会基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金, 同窓会創立120周年記念事業積立金）
- 第20号議案 平成26年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支予算
- 第21号議案 平成26年度 時局対策費積立金会計収支予算
- 第22号議案 平成26年度 名誉会員の推薦
- 第23号議案 役員改選

1. 協 議

- (1) 東京歯科大学同窓会会員緊急時 代診制度の見直しについて
- (2) その他

1. 名誉会員推戴式

- 1. 平成24年度(秋), 平成25年度(春)叙勲, 褒章受章者顕彰式

1. 閉 会 の 辞

第119回 東京歯科大学同窓会定時総会

(午後4時10分～午後5時00分)

1. 開 会 の 辞

1. 会 長 挨 拶

1. 議 長, 副 議 長 選 出

1. 議 事 録 署 名 人 指 名

1. 報 告

- (1) 平成25年度 会務報告
- (2) 平成25年度 評議員会報告
- (3) 平成26年度 経常部, 特別会計, 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金, 時局政策費積

立金会計収支予算

1. 議 事

- 第1号議案 平成24年度 経常部収支決算
- 第2号議案 平成24年度 特別会計収支決算(同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金)
- 第3号議案 平成24年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支決算
- 第4号議案 平成24年度 時局対策費積立金会計収支決算
- 第5号議案 平成24年度 財産目録(監査報告)
- 第6号議案 財産(備品)廃棄処分
- 第7号議案 総会に係る会則の改正
- 第8号議案 役員を選任に係る会則の改正
- 第9号議案 同窓会基金および血脇記念基金に係る会則の改正

1. 協 議

1. 閉 会 の 辞

会務アラカルト

同窓会がかかえる数多い課題の解決に向かって、平成20年度より大山執行部は同窓会改革として事業改革と組織改革を手掛け、そしてその精神は矢崎執行部へと引き継がれ、平成24年度から「大学との更なる連携強化」と「若手同窓との連携推進」を重点事業としてまいりました。そして次なる改革へと今回の評議員会においても引き続き多くの重要案件が上程されます。第1号から第23号議案まであり、総会の廃止、会長・監事の選出に関する選挙規則の制定、評議員の選出方法など、今後の同窓会の本質にかかわる重要課題が含まれております。そして共済制度、基金、本部会費過年度分の請求年度についての見直しも提案する予定です。

<p>大山執行部</p> <p>同窓会改革 事業改革</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 支部・地域支部連合会との関係強化 情報ネット 2) 母校との連携強化 3) シンクタンク機能の推進 4) 若手育成・支援のための卒後研修事業の見直し 若手研修セミナー <p>組織改革</p> <ul style="list-style-type: none"> 5) 本部同窓会執行部及び評議員会の改革 <ul style="list-style-type: none"> ①地域支部連合会員数による評議員の選出 ②一県一評議員の経過措置 ③支部長会への本部役員の出席 ④地域支部連合会長の本部役員としての本部執行への参加 	<p>矢崎執行部</p> <p>重点事業</p> <p>大学との連携強化 若手同窓との連携強化 支部加入促進 同窓会改革の実行</p> <p>次なる取組</p> <p>総会の廃止 選挙規則の制定 共済制度の見直し 基金の見直し 過年度分会費等の請求の見直し</p> <p>将来へ</p> <p>同窓会創立120周年記念事業 アカデミア構想の実現へ</p>
--	---

総会の廃止について

同窓会の議決機関として評議員会と総会があります。総会で議決すべき事柄は会則の変更と決算および資産の状況についてですが、この事項については評議員会での議決事項にも含まれており、評議員会の後に行われる総会では、評議員会で決定した事項を再度議案として上程しています。最近では

総会に新たに出席する会員は殆どなく、評議員会に出席した評議員が同じ提案理由を繰り返し聞き、再度議決を行っております。このように事実上総会の役割は評議員会で十分果されていることから、昨年の評議員会での協議題で「総会の廃止」を提案させていただきました。会員一人一人が発言する場がなくなるのではとの意見があ

りましたが、会員の先生方には今後地域支部連合会総会等の場で意見を述べてもらい地域支部連合会で意見集約をし、代表する評議員が評議員会で発言してもらうようお願いすると同時に、ホームページの会員窓口から会員個々の問題はここから理事会にあがる仕組みがあることをお知らせしてまいります。また、“評議員会の招集は会長が”となっておりますので、何か問題があった時を想定して、支部長の要請によって臨時に評議員会を開催できることを付け加えました。さらに評議員以外の会員の先生方の傍聴も可能にするなど開かれた評議員会をめざし提案する予定であります。

選挙規則について

「伝統と歴史をもつ東京歯科大学同窓会の会長を選出する規則がないのはおかしいのでは」との意見は以前よりあり、一昨年の評議員会でも指摘されました。そこで昨年、透明性、公平性をそして従来から規則がなくとも問題なく素晴らしい会長が選出されてきた経過をふまえ、新たな選挙規則を評議員会の協議題で提案いたしました。立候補制により、評議員会において地域支部連合会の会員数により選出された評議員が評議員会において選出することになります。もちろん、議長の裁量で別段の方法をとることもできるようにしてあります。今回の評議員会で承認されれば来年からの施行となり、平成26年度に入って選挙管理委員会の設置にはじまり平成27年の役員選挙から適応される予定になります。

評議員の選出方法

昨年度より評議員の選出方法が変わり、地域支部連合会から1名を基準とし、地域支部連合会の会

員数100人に1名の評議員を各地域支部連合ごとに選出いただくことになりましたが、この方法によると県支部によっては評議員会に出られず地域の同窓会活動に支障を生じるということから、どの県支部から少なくとも一名は評議員として出席できるように一県一評議員制度が経過措置としてとられました。この一県一評議員の経過措置は2年間とありますが、2年たてば自動的に消滅するのではなく、その間経過措置のあり方、評議員会のあり方を検討すること、併せて支部—連合会—本部間の情報共有化、地域支部連合会を核とした支部からの意見集約の道づくり組織基盤を整備することを条件としており、これらを踏まえて今回の評議員会でこの経過措置についてのどうするかを決めなければなりません。執行部では、情報共有化が未完成であること、地域支部連合会の意見集約システムが出来上がるまで更なる時間を要することなどの理由で、この経過措置を2年間延長する方がよいの結論を得、会務検討特別委員会や地域支部連合会支部長会にてご意見をいただき、その方向で提案することになりました。

情報ネットは情報共有化をめざし支部長や学年代表者への情報提供ができるよう、ほぼネットワークは完成しましたが、そこから全会員への情報の流れるには至っておりません。また、双方向の情報の流れもあまり行われていませんし、さらには担当理事による個人的な尽力に支えられている部分が多く今後恒常性を高める必要もあります。また地域支部連合会においても、連合会長が本部役員として理事会で直接意見を述べたり、支部長会に本部役員が出席し地域の声を本部に届けるようにはなっていますが、地域支部連合会を核

とした組織体制が出来上がるにはまだしばらく時間を要すると考えられます。会務検討特別委員会の答申において、今後の地域支部の会員数の減少などにより支部活力の低下も懸念されることから、地域支部連合会を核とした組織づくりを執行部として喫緊の課題として取り組むべきとの提案もあるよう、支部・地域支部連合会・本部のあり方を更に深め進めていく必要があります。

共済制度の見直し

現行では80歳長寿お祝い金5万円、弔慰共済金10万円となっておりますが、厚生委員会のシミュレーションによりますと、このままでは毎年の会員からの共済負担金収入をその年に支払われる共済金等の支出が上回り、年々繰越金が減少し将来存続の危機を来すとの分析結果が示されました。もし破綻しますとそれまで共済制度を支えてきた方々、すなわち今の若い会員に対する責任が果たせないということから何らかの対応をすべきという結論に達しました。そこで委員会では80歳長寿お祝い金5万円の支給を受けた人は亡くなった際の弔慰共済金を5万円に減額してもらえばとの結論に達しました。そうすることにより収入が支出を上回り、減少にあった繰越金が回復とするという予測となりました。これは今後とも共済金収入が確保された場合のシミュレーションであり、共済金収入の減少の可能性も否定できませんので5年後に見直しをするということで評議員会では提案する予定となりました。

本部会費未収分の請求期間

昭和41年度評議員会、総会において昭和35年度以前の会費徴収の中止が承認、さらに昭和56年度評

議員会、総会において昭和40年度以前の会費徴収の中止が承認されました。すなわち昭和41年の時は当時として6年分、昭和56年のときは15年分の過年度分請求をすると決めております。前々回の評議員会では、“支部加入の際、本部会費未払い分が多額になり清算できないことを理由に支部に加入しない”ということから、徳政令を発して過去の本部会費未払い金は帳消しにとの提案がありました。支部加入を促進する意味から、昨年評議員会で「支部において、過去の本部会費未納の有無を問わず支部加入を進めてほしい」とのお願いをいたしました。その後執行部でも検討を続け、過去の未払い金の一部請求中止を決めました。時期については、請求を取りやめても影響の少ない年度ということで検討を続けました。そこで過年度分の収入実績を調べていきますと、昭和分の実績は少なく、昭和で切ってもそれほど影響はないだろうと判断し、今回「昭和分については請求を中止する」こととしました。実質次年度は25年間を未払い金請求することになり、以前の二回の例に比べ長期となりましたが、今の財政状況を見ますと適当であろうと考える次第です。

基金の見直し

基金として同窓会基金と血脇記念基金とがあります。血脇記念基金の大正14年発足当時は、血脇賞基金として生まれ歯科学報に掲載された優秀論文に授与される血脇賞のために創設され、昭和2年より昭和36年まで26回、26名27論文に授与されました。その後血脇賞の授与がなくなり、昭和46年から血脇記念基金と名称を変え、平成2年に血脇記念会館模型の為の支出があり、その後現在に至っております。また同窓会基金は昭和29

年に同窓会創立60周年を機に育英資金、奨学資金など母校協力の一助として創設されましたが、近年では活用されることも少なく同窓会周年事業をはじめ事務機器整備などに使われただけで10年以上を経過してきました。当時の規定が現状にそぐわないこと、また使途も統一性がないことなどからあり方を検討し、名称を「高山・血脇記念同窓会基金」とあらため、新しい規程により活用していきたいと提案させていただきます。

同窓会創立120周年記念事業に向けて

明治23年、歯科医学の知識がほとんどなく、歯の痛みや治療に多くの人が悩んだ時代、高山紀齋先生はアメリカの歯科医術を日本に持ち込み、『本院は主として高尚の歯科医学を教授し、治術を練修せしむる所とす』の目的をもって日本の歯科医師を育てようと高山歯科医学院を創立、そして明治28年血脇先生のご尽力により第一回院友会が開催され東京歯科大学同窓会がスタートしました。当時の会則では「本会は歯科医学上の知識を交換し相互の友誼親睦を篤くして歯科の品位を高かむるにあり」と目的を定めており、歯科医の知識レベルの向上、そして品格を持つことにより医師あるいは社会から軽んじられていた当時の歯科医の立場を何とか高めようとした時代で、社会的にも日本歯科医師会の設立や歯科医師法の制定など急速に登りつめようとする歯科界の気合いを感じさせます。しかし高山・血脇両先生のスピリッツこそ決して120年前の話にとどまらず、現在に至るまで東京歯科同窓に脈々と受け継がれてきております。「歯科医学」、「建学の精神」、「歯科医師である前に人間たれ」、「三分の茶目」、「血脇イズ

ム」、「実学」、「フロンティアスピリット」、「医はこれ済生、ひとえに仁なり」、「慶応とのかかわり」、「家族主義」、「品格」、「死ぬ気でやれば」、「高尚の歯科医学」、「私学の力」、こんな先人たちの足跡をどこか心の支えに、毎日コツコツと真面目に歯科医業や社会活動に取り組んできた方も多いのではないでしょうか。

そして平成27年に同窓会創立120周年をむかえ、11月に記念事業を執り行うことが決まりました。高山先生、血脇先生の偉業に敬意と感謝をささげるとともに、お二人の志を次の世代に継いでいければと準備委員会では考えております。記念式典、記念講演、祝賀会、記念誌の発行、記念事業など計画していますが、稲毛から水道橋への大学移転、同窓会改革など変革の時期を迎えている母校と同窓会ですので、未来の新しい同窓会をめざしてあらたな方向にかじ取りをしていく機会になればと思っております。

記念事業としての学術活動の見直し

同窓会創立120周年を機に、新しい同窓会の役割、新しい大学との連携、新しい生涯研修をもとめてスタートを見ざしているのがアカデミア構想です。「同窓会の役割としての人材研修や生涯研修」と聞くと何でと首をかしげる人がいるかもしれませんが、実は東京歯科大学同窓会の歴史は学術の歴史と言っても過言ではありません。

発足当時、高山初代会長はアメリカの同窓会を例に院友会に研究機関としての役割を期待しておりました。そして発足4ヵ月後に「歯科医学叢談」を創刊し、新知識や情報伝達の媒体として活用しました。その後明治33年東京歯科大学に改称されたときも「歯科学報」と改題し戦後同窓会報発刊ま

で同窓会の機関誌の役割も果たしてきたと同時に学術誌として立派に命脈をたもち今日に至っています。さらに東京歯科大学専門学校の同窓会になっても血協会長より「一種の学術的研究団体と致して毎年一回同窓の者が寄集まって互に研究し合ったところで発表するとか若しくは討論などを致し、また重ねてこの機会を利用して東西南北に散在しておられる同窓が集って昔話を語り合うという組織に致したいのであります」と総会の際に述べられ、それ以降、総会終了後宿題報告、講演、デモンストレーション、テーブルクリニックなど学術講演が開催されるようになってきました。そして時代は昭和になっても学術活動は盛んで、まず例会を2月と6月の2回開催することとし、ここで講演、演説、展示会を開くと会則上でも定められました。さらに血協賞規定をつくり優秀論文に対し贈呈したり、同窓会賞の授与も記録に残っています。この例会はその後

昭和37年に至るまで二月と六月に継続的に行われてきています。それ以降も同窓会講演会、夏期講習、日曜セミナーなどいろいろな学術事業として高山・血協先生の思いは引き継がれてきたのです。

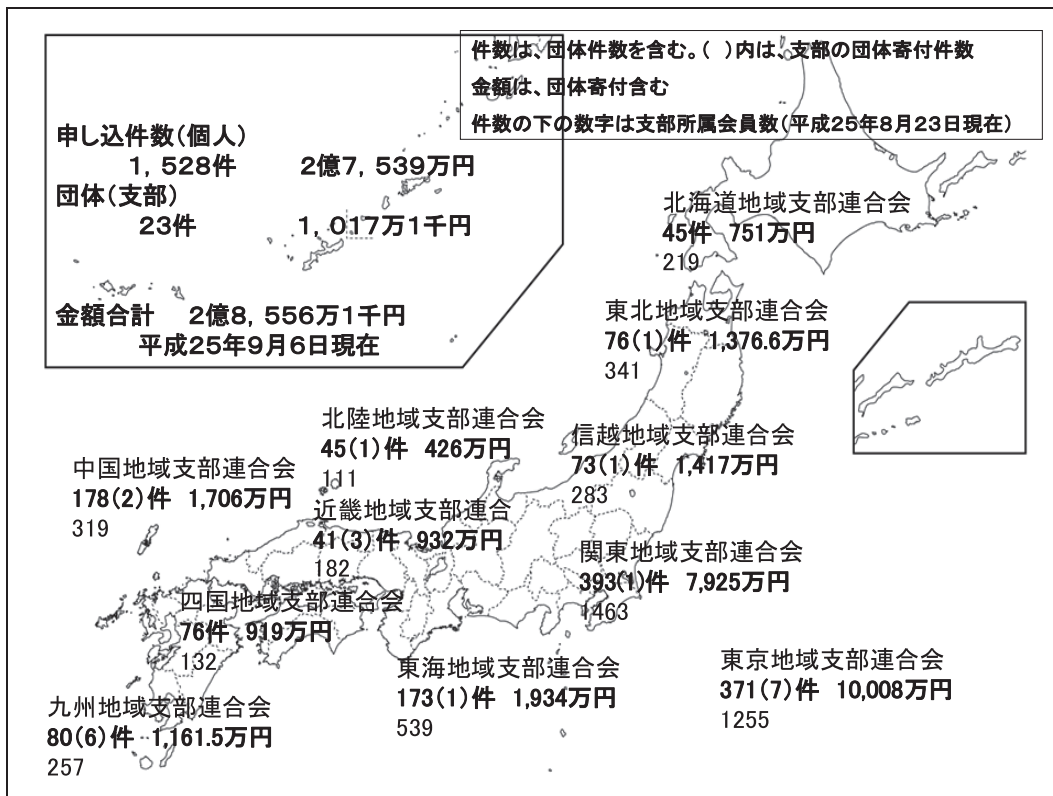
さて、そして昭和50年、卒後研修セミナーが始まりました。歯科界ではいろいろな問題で社会の厳しい目が注がれた頃ですが、それにこたえるように全国同窓会の先導性をもって同窓会によるセミナー事業が始まりました。現在卒後研修特別委員会から事業推進部学術委員会にかわりましたが、卒研セミナーではチュートリアル、ハンズオン、ベーシック、フォーラム、シンクタンクなど多彩な学術活動を展開しています。

同窓会創立120周年を機に同窓会を人材育成、生涯研修支援のためのアカデミアにという構想が生まれてきました。今後のスケジュールですが、本年度中に基本的な構想を作り、来年度には大学ととともに大学連携をもとにした

構想づくりへ、そして平成27年には全国に東京歯科大学同窓会は新しい同窓会の役割を持ちながら次の時代を切り開いていく宣言が出来ればと期待しております。そう言いながらも、具体的なプラン、企画・運営などについては構想の域を出ず10年計画となると思っております。平成26年度から始める必要があります。次年度事業計画・予算にもいろいろその色が添えられていくと思いますので、よろしく応援のほどお願いいたします。

大学の移転寄付金募集期間の延長

同窓会会報8月号でもお知らせいたしました。受付期間が今年末まで、入金期間が、来年（平成26年）3月末まで、延長となっております。9月6日時点では、2億8,556万1千円のご寄付をいただいておりますが、目標の5億円には達していません。口数に拘らず、できれば会員の先生方全員からのご寄付をお願いいたします。



止まったままの時計（被災地を見学して）

8月7日、とっても暑い日、仙台の七夕祭りに行ってきました。仙台の駅から続く商店街には、青・赤・ピンク・緑とそれぞれはとっても綺麗な七夕の飾りが、商店街のアーケードの上から沢山下がっていて、大勢の人で賑わっていました。

七夕の短冊の中には「お母さんに会えますように…」という被災された方が書いたものもありました。

次の日、仙台の中心地から車でほど遠くない閑上被災地を見学に行きました。

昨日の七夕祭り会場からほんの少ししか離れていないとは思えない、閑散とした、ただ、荒れ果てて何もない土地が続くだけのところに閑上中学校がポツンと建っていました。

中学校の時計は、あの大地震が



起きた2時46分のまま静かに止まっていました。校舎の入り口には、小さな机が二つ、「いつも一緒だよ。」と被災して大切な命を落とした子供たちへのメッセージが書き込まれていました。校舎の中を覗くと、人気の無い廊下は静まり返り、壁には水面の線が残っていました。

2011年3月11日のあの時まで

は、きっと子供達の元気な声が響いていたのだろうと思うと、涙が出てきました。その日は本当にお天気が良く、暑い日でしたが、なぜか冷たく寒々しい廊下が続くだけの光景。青く晴れ渡った空の下で止まったままの時計と、雨ざらしで色あせたメッセージが印象的でした。

中学校のすぐ隣には、被災した



状態のままの家が残っていました。窓ガラスが割れ、外壁に穴が開き、契れたカーテンが風になびいて、部屋の中には、泥まみれになったソファと机が見えていました。

そして、その近くに、「メモワード閣上」という小さな家が建っており、「閣上の記憶」という看板が出ていました。中では、その時の様子を記録したビデオを見たり、ボランティアの語り部の方々の話を聞くことができます。そして、将来に向けて残していかなくてはならない記憶とともに、子供達の心の傷を癒すための活動が進められているとのことでした。

そこから、車で海の方へ進むとそこには、本当に何も無い…ただ草が生い茂る荒れ地が続いていました。広い荒れ地の向こうには墓石が集まって倒れています。墓石を立て直す家族や親族までもいなくなってしまったのだろうとのことでした。

ただただ、広く水平線まで見えるような風景に唖然としました。



市街地では「復興」への動きが進む中で、今も尚、被災の跡が残る風景。あんなに賑やかな七夕祭りからは想像もできない、見るだけで悲しい淋しい状況を知りました。その中で、一時は海水に浸り地面がむき出しになっていた土地に草木が生えてきていることに、時の流れと生命の力強さを感じ、少しホッとしました。

被災地見学に行くと知人に話したところ、皆同じように、「何も無いし、何も出来ないけど、見ておいた方がいいよ」と言われことを思い出しました。本当にそのと

おりです。何も出来ない。実際に被災された人たちの気持ちは解ってあげたいけど解らない。ただ、何だか重たいものを感じました。

今回の被災地見学では、逆に色々なことを教えられました。私の出来る事は忘れないでいることだけかもしれませんが、中学校の止まったままの時計や一緒だよというメッセージを決して忘れません…。そして、毎日の忙しさに追われ、忘れかけていた、普通に生活していることへの「感謝」を忘れずにいたいと思いました。

(取材・広報部 佐々木葉子)



ゴルフ大会

第41回同窓会主催ゴルフ大会を終えて

本年のゴルフ大会は、9月12日（木）、神奈川県横浜カントリークラブ西コースにて開催されました。横浜カントリークラブは、自然の地形を生かした戦略性の高いコースで、日本オープンなど数々の公式戦の会場となりました。特に今回の西コースは、昨年の日本女子オープンが開催されたことでも有名であります。日本ゴルフ界における数々の名勝負が繰り広げられた本コースで、参加者の皆様は和気藹藹とした雰囲気の中でも真剣な面持ちでプレーをされておられました。

競技はアンダーハンドの18ホールストロークプレーで行われ、ハンディキャップはダブルペリア方式で算定しました。毎年一般の部、シニアの部からそれぞれ優勝者を決めておりましたが、シニアの会員からのご要望によりこの区分けを撤廃いたしました。したがって本年より、ゴルフ大会の優勝者には「東京歯科大学同窓日本一」の称号が与えられることとなります。当日の参加者は123名で、その内シニア（65歳以上）は48名、女性は9名でした。

今年は9月中旬の開催ということで、暑さも峠を過ぎ清々しいコンディションの中でプレーすることができました。横浜カントリークラブのコースコンディションの良さは大変素晴らしく、グリーンはもとよりフェアウエーやラフの状態はとて良く整備されておりました。都心近くにありながら広大な緑に囲まれた本コースは時には美しく、時には手厳しくゴルフファアを迎えます。池、バンカーが戦略的にレイアウトされ外見か

らは想像もつかない難しさで、参加された皆様もさぞかし苦勞されたことと思います。

懇親会は三島 裕総務委員長の司会のもと、堀 正樹競技委員長の開会のことばに始まり、鳴神保雄同窓会顧問の挨拶と続きました。来賓からは学校法人東京歯科大学・金子 譲理事長に御挨拶をいただきました。さらに同窓会・海野 智理事より大会関係の報告が行われた後、本大会開催にあたり御協力いただいた神奈川県支部連合同窓会を代表し高橋 庸連合同窓会副会長の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。

中野正博大会実行委員長の挨拶の後、中川路健司総務副委員長の進行で成績発表と賞品授与が行われ、同窓会長杯が優勝の大澤武雄先生に、理事長杯が準優勝の宮田太郎先生に、学長杯が三位の宗本匡由先生に贈られました。水道橋病院院長杯の一般の部ベストグロは町田貴敏先生、千葉病院院長杯のシニアの部ベストグロは村上芳一先生

が獲得されました。さらにグランドシニアベストグロは石山照雄先生、女子ベストグロは安藤公美先生でした。

その他、30位までと飛び賞、ブービー賞などがそれぞれの受賞者に授与されました。

本大会の開催にあたり、大学当局ならびに同窓会本部、神奈川県支部連合同窓会から多大な協力をうけ賜りました事に深く御礼申し上げます。さらに大会運営における横浜カントリークラブならびに同窓会事務局の皆様の御苦勞に厚く感謝申し上げます。

来年の大会は、「おむらさきゴルフクラブ」で9月15日（祝）に開催の予定です。より盛大で意義ある大会にする所存でありますので宜しく願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様の益々のご活躍とご発展をお祈りいたしまして、ご報告とさせていただきます。

（大会実行委員長 中野正博）



ゴルフ大会委員・ゴルフ大会実行委員

優勝

大澤武雄先生（昭和42年卒）



「瓢箪から駒」

まずは優勝の栄誉をいただき、有難うございました。同伴者の昭和42年卒の黒須君・中川君・宗本君に迷惑を掛けながら、一番スコアの悪い私が優勝するとは思っていませんでした。翌日から埼玉県歯科医師会と台湾歯科医師会との親善ソフトボール大会参加で訪台する為、17時に帰ると決めていて、パーティーに出席できませんでした。ご参加の皆様には大変申し訳なくお詫びいたします。帰国後、同窓会から電話ですと言われ、飛賞にでも入ったかなと電話に出ると、優勝したので原稿を書いて下さいとのこと「じえじえじえ」

ゴルフはハンデがあって、上手な人も下手な人も一緒に楽しめる競技です。以前から競技委員として、スクラッチ競技でなく、新ペリア方式でハンデを決める同窓会の大会では、誰でも優勝するチャンスがあるので、シニアを別にする必要はないと発言してきました。今回それが実現し、シニアの誰かが優勝したらいいなと思いながら大会に臨みました。それがまさか本人が優勝するとは、まさに瓢箪から駒でした。スコアが悪くても優勝できる見本となりました。

大会に参加を躊躇している方、どうぞ次回は参加しましょう。楽しいですよ。

ベスグロ

町田貴敏先生（平成4年卒）



念願のベスグロ

まず初めに大会開催にあたり、ご尽力頂いた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

相模原 GC から参加させて頂いて3回目の同窓会全国大会。去年は大病を患い一ヶ月以上の入院、ゴルフも数ヶ月以上できず本大会にも参加出来ませんでした。三度の食事よりも大好きなゴルフ。それまでは楽しむというよりはスコア重視のゴルフでした。しかしゴルフができる喜びを知り、ラウンドしていてもまずは楽しく、今回も同級生の西村哲雄先生、今大会2位に入賞した宮田太郎先生、初めてプレーさせて頂いた大先輩千葉の川野壽彦先生と談笑しながらのラウンド。当日は30℃を超える

猛暑、スタート時間は最終組の10時20分で、しかも歩きでのプレーで普通ならば愚痴でもこぼすところですが、初めてのコースということもあってワクワクしながらいざ出陣。前半はショットは良かったのですがパターが決まらず40回、後半はキャディーさんにもラインを読んでもらいショートだけはしないように強気のパットで望んだら2バーディの37回。ラウンド終了後、競技委員長の堀 正樹先生からベスグロと伝えられ心の中でガッツポーズ。帰りの交通渋滞も鼻歌を歌いながら帰宅し一日余韻にひたりました。

また来年も是非参加できるように精進いたします。

成績表

順位	名前	OUT	IN	グロス	ハンデ	ネット
優勝	大澤 武雄	48	49	97	28.8	68.2
準優勝	宮田 太郎	53	47	100	31.2	68.8
3位	宗本 匡由	46	42	88	18.0	70.0
4位	小野寺保好	39	43	82	12.0	70.0
5位	村上 芳一	39	40	79	8.4	70.6
6位	中川路健司	40	43	83	12.0	71.0
7位	長久保文夫	43	42	85	13.2	71.8
8位	木暮 隆司	38	46	84	12.0	72.0
9位	高橋 義一	48	41	89	16.8	72.2
10位	町田 貴敏	40	37	77	4.8	72.2
11位	高橋 治好	42	45	87	14.4	72.6
12位	大久保清光	48	51	99	26.4	72.6
13位	田部 和彦	48	44	92	19.2	72.8
14位	安藤 公美	38	42	80	7.2	72.8
15位	続 肇彦	52	51	103	30.0	73.0
16位	成田 賢二	42	42	84	10.8	73.2
17位	佐野 勇	47	55	102	28.8	73.2
18位	磯野 珠貴	41	43	84	10.8	73.2
19位	堺 清一	43	46	89	15.6	73.4
20位	川田 利光	41	47	88	14.4	73.6
21位	河内 博	50	43	93	19.2	73.8
22位	石山智香子	52	47	99	26.2	73.8
23位	阿武野弘信	47	50	97	22.8	74.2
24位	荻原 英生	43	42	85	10.8	74.2
25位	島田 英明	45	45	90	15.6	74.4
26位	杉本 省三	47	47	94	19.2	74.8
27位	中川 勝洋	44	44	88	13.2	74.8
28位	藤波 齊	44	44	88	13.2	74.8
29位	石山 文子	55	56	111	36.0	75.0
30位	原 一雄	35	46	81	6.0	75.0



表彰式前



表彰式前



懇親会



準優勝・宮田太郎先生
(城東支部・H4年卒)



3位・宗本匡由先生
(兵庫県支部・S42年卒)



グランドシニアバスグロ・
石山照雄先生
(浅草支部・S40年卒)



シニアバスグロ・
村上芳一先生
(静岡県支部・S47年卒)



女子バスグロ・
安藤公美先生
(目黒支部・H15年卒)



S40年卒の先生方



スコアカードの提出



表彰式

保 険

補綴物の診療報酬について考える

最近の円安や世界的な需要増加により金属が高騰しています。歯科用の金パラをはじめとする金属材料も同様です。2年毎の診療報酬改定以外にも半年ごとに金属代が改定される場合もありますが補綴物の点数のどの部分が改定されるのかはなかなか見えにくいと思います。今回はそのあたりを掘り下げてみたいと思います。

補綴物に関連する保険点数のしくみ

歯科医療機関が使用する「点数表」（保険点数）の内容とは？

歯科医療機関の多くは、(社)日本歯科医師会が会員用に作成している「社会保険歯科診療報酬点数早見表」に表示されている点数を念頭に診療報酬請求業務を行っていますが、この「点数早見表」からでは、各項目の技術料が何点なのかは分かりません。そのため、材料料がいくらなのか、技術料がいくらなのかを知っておく必要があります。以下に具体例を示します。

表示例 鑄造歯冠修復等 (全部鑄造冠 金パラ使用)	1 技術料 454点	+	2 材料料 370点(大白歯) 平成24年4月(随時改定)	(※装着料は 別表記)	=	「早見表」 表示点数 824点	
表示例 有床義歯 (総義歯 レジン床)	1 技術料 2,100点	+	2 材料料 10点	+	3 装着料 230点	=	「早見表」 表示点数 2,340点

資料1

診療報酬点数早見表にある補綴物点数は資料1にあるように

① 鑄造歯冠修復等（歯冠修復とブリッジ）ではそれぞれ

1 技術料 2 材料料 に分解できます。

1 + 2 = 点数表に記載されている点数（例 大白歯 FMC であれば824点）

② 有床義歯については

1 技術料 2 材料料 3 装着料に分解できます。

1 + 2 + 3 = 点数表に記載されている点数（例 レジン床総義歯であれば2340点）

このうち半年に一度の金パラの価格見直しにより改定される部分は、上記①②共に2の材料料です。例えば金パラ使用の大白歯 FMC は現時点では3700円分の金属を使用する前提となっています。日々変化する金属相場の現状からみると現在はおおよそ3グラム程度しか使うことが出来ず、もしもこれを超えた使用料があった場合にはその差額は歯科医院負担となります。またこれより少ない使用料の場合でも、3700円分の金属を使用したものとみなされます。金属が急騰すれば使用できる金属代は簡単に逆ザヤとなってしまいます。全国一律の診療報酬という公定価格の中に、金属などの材料は相場に任せるとい市場経済を持ち込んでいることになるため大きな矛盾が生じています。金属代は今後、薬価のように国が管理する公定価格にしていくべきではないでしょうか。同様に日本歯科医師会では、全ての補綴物についての内訳を技術料と材料料とに分解して表にしています。（資料2参照）この表を見ると現状での技術料がいかに低い設定であるかということが分かります。

そして、これらの材料料に技工料を加えたものが補綴物の原価となります。業種により、あるべき原価率というものは異なりますが、歯科医院においての原価計算をする上で一つの指標となるはずですが。金パラ代用金属の開発や、なるべく補綴に頼らない診療計画も今後は必要になるかもしれません。また技工料金も諸問題を整理して公定価格とすることを目指すのも一考の余地がありそうです。

今回の保険のページでは前回までと視点を変え、現状の医療保険の抱える問題点を掲載致しました。日常臨床で役立つ算定に関するものではありません。消費税負担、PTT参加による日本の医療に与える影響、またかねてより議論のある混合診療等、多くの困難な状況があります。今後は保険委員会としても様々な視点より医療保険に関して検討、考察も試みたいと考えています。会員の皆様よりのご意見、ご希望等お寄せ頂きたいと思ひます。

平成24年4月1日実施の改正点数表

※網掛は点数の変更箇所
※義歯は装着料込みの点数

項目	技術料	材料料	装着料	合計	50/100加算	70/100減	
■処置							
初期う蝕早期充填処置	122	11		133	194		
■支台築造							
メタルコア	大臼歯	176	61		237	325	184
	前歯・小臼歯	150	38		188	263	143
その他	大臼歯	126	32		158	221	120
	前歯・小臼歯	126	21		147	210	119
■金属歯冠修復 ※(旧) 鑄造歯冠修復							
◇14K(Br支台歯用)	複 雑	284	571		855	855	
	3/4冠	370	714		1084	1084	973
◇金銀パラジウム合金							
前 歯	単 純	190	86		276	276	
	複 雑	284	171		455	455	
	3/4冠	370	211		581	581	470
	レジン前装金属冠	1174	330		1504	1504	1152
小臼歯	単 純	190	86		276	276	
	複 雑	284	171		455	455	
	4/5冠	310	211		521	521	428
	FMC	454	265		719	719	583
大臼歯	単 純	190	126		316	316	
	複 雑	284	234		518	518	
	4/5冠	310	294		604	604	511
	FMC	454	370		824	824	688
◇ニッケルクロム合金							
前 歯	単 純	190	4		194	194	
	複 雑	284	4		288	288	
	3/4冠	370	6		376	376	265
	レジン前装金属冠	1174	17		1191	1191	839
小臼歯	単 純	190	4		194	194	
	複 雑	284	4		288	288	
	4/5冠	310	6		316	316	233
	FMC	454	8		462	462	326
大臼歯	単 純	190	4		194	194	
	複 雑	284	4		288	288	
	4/5冠	310	8		318	318	225
	FMC	454	10		464	464	328
◇銀合金							
前歯・小臼歯	単 純	190	11		201	201	
	複 雑	284	23		307	307	
	3/4冠	370	29		399	399	288
	4/5冠	310	29		339	339	246
	FMC	454	37		491	491	355
	レジン前装金属冠	1174	80		1254	1254	902
乳 歯	単 純	190	11		201	201	
	複 雑	284	23		307	307	
	FMC	454	37		491	491	
大臼歯	単 純	190	18		208	208	
	複 雑	284	31		315	315	
	4/5冠	310	41		351	351	258
	FMC	454	50		504	504	368
■ジャケット冠・他							
□ジャケット冠	390	2		392	392	275	
□硬質レジンジャケット冠							
加熱	750	8		758	758	533	
光	750	213		963	963	738	
□乳歯金属冠	200	29		229	229		
■ボンテック							
□鑄造ボンテック							
◇金パラ合金	大臼歯	434	426		860	860	730
	小臼歯	434	321		755	755	625
◇その他の合金							
ニッケルクロム銀合金	大・小臼歯	434	41		475	475	345
□金属裏装ボンテック							
◇14K	前 歯	751	536		1287	1290	1064
◇金パラ合金	前 歯	754	173		927	927	701
	小臼歯	754	218		972	972	746

資料2

項 目		技術料	材料料	装着料	合 計	50/100加算	70/100減減
◇その他の合金							
ニッケルクロム銀合金	前歯・小臼歯	754	27		781	781	555
□レジン前装金属ボンティック ※(旧)前装鑄造ボンティック							
◇金パラ合金	前 歯	1180	256		1436	1346	1082
◇その他の合金							
ニッケルクロム・銀合金	前 歯	1180	52		1232	1232	878
■有床義歯(レジン床義歯)							
□レジン床義歯							
◇局部義歯	1~4歯	560	2	60	622	652	
	5~8歯	690	3	60	753	783	
	9~11歯	920	5	120	1045	105	
	12~14歯	1340	7	120	1467	1527	
◇総義歯		2100	10	230	2340	2455	
□レジン床義歯 内面適合法							
◇局部義歯	1~4歯	210		60	270	405	
	5~8歯	260		60	320	480	
	9~11歯	360		120	480	720	
	12~14歯	560		120	680	1020	
◇総義歯		770		230	1000	1500	
■熱可塑性樹脂有床義歯							
□熱可塑性樹脂有床義歯							
◇局部義歯	1~4歯	670	46	60	776	806	
	5~8歯	900	46	60	1006	1036	
	9~11歯	1120	46	120	1286	1346	
	12~14歯	1750	46	120	1916	1976	
◇総義歯		2780	46	230	3056	3171	
□熱可塑性樹脂有床義歯 内面的合法							
◇局部義歯	1~4歯	210		60	270	405	
	5~8歯	260		60	320	480	
	9~11歯	360		120	480	720	
	12~14歯	560		120	680	1020	
◇総義歯		770		230	1000	1500	
■鉤・バー							
□鑄造鉤							
◇双子鉤 ※(旧)双歯鉤							
14K	大犬・大小	230	674		904	904	
	犬小・小小	230	548		778	778	
金パラ	大犬・大小	230	341		571	571	
	犬小・小小	230	267		497	497	
ニッケル コバルト	大犬・大小	230	5		235	235	
	犬小・小小	230	5		235	235	
◇二腕鉤 ※(旧)両翼鉤							
14K	大臼歯	212	548		760	760	
	小・犬歯	212	421		633	633	
	前 歯	212	324		536	536	
金パラ	大臼歯	212	234		446	446	
	小・犬歯	212	203		415	415	
	前 歯	212	189		401	401	
ニッケル	大臼歯	212	5		217	217	
	小・犬歯	212	5		217	217	
	前 歯	212	5		217	217	
□線鉤							
◇双子鉤	14K	200	345		545	545	
	不銹・特殊	200	9		209	209	
◇二腕鉤 (レストつき)	14K	140	266		406	406	
	不銹・特殊	140	9		149	149	
◇レストなし		120	9		129	129	
◇フック・スパー		103			103	103	
□バー							
◇屈曲							
金パラ	パラタル	248	589		837	837	
	リングル	248	670		918	918	
不銹鋼・特殊鋼		248	39		287	287	
◇鑄造							
金銀パラジウム合金		438	546		984	984	
ニッケルクロム合金		438	18		456	456	
コバルトクロム合金		438	18		456	456	

卒研レポート2013

<特別企画> インプラントの極意

4日間コース（後編）

7月20日(土)「ノーベルバイオケア品川研修室」21日(日)「TDCビル13階セミナー室」にて「インプラントの極意 4日間コース」<後編>が行われました。前回に引き続き小宮山彌太郎先生（ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター）と藤関雅嗣先生（神田インプラントセンター）を講師に迎え、17名の受講生が参加しました。



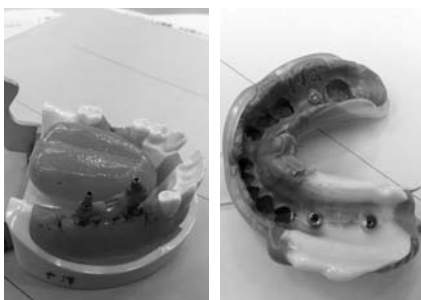
<3日目>

小宮山彌太郎先生より、インプラント補綴の基本「印象から上部構造・材質」についての講義があり、フィクスチャー埋入後の暫間補綴物の取り扱いやプロビジョナルの重要性・インプラント印象の方法について学びました。



午後には、前回の実習で埋入したインプラントの二次手術および75部ブローネマルクインプラント埋入～印象の実習がありました。サージカルガイドを用いた埋入窩の形成、印象用コーピングと

オープントレーを用いた印象採得を体験しました。



<4日目>

小宮山彌太郎先生より、手術時の注意点・術後管理、抜歯後即時埋入および即時加重の注意点についての講義があり、そのあと2班に分かれ、5本インプラントの最終締結感実習と花井淳一郎先生によるガイドサージェリーと診療室で行うインプラント手術についての講義がありました。



午後からは、藤関雅嗣先生によるインターナル・エクスターナルの使い分け・利点欠点について、またQOLのターニングポイント

である10歯前後の欠損の症例紹介がありました。



小宮山彌太郎先生より、インプラント上部構造のリカバリーとメンテナンスについて講義がありました。



小宮山・藤関両先生を交えたディスカッションが行われ、受講生からは本セミナーはもちろん日常診療に関する質問も多く寄せられました。



小宮山彌太郎先生より受講生へ本セミナー修了証書とノーベルバイオケアインプラントのサーティフィケートの授与が行われました。（取材・広報部 横田東生）

母校だより

東京歯科大学水道橋校舎新館開校に伴う，全学生に対する説明会開催

平成25年8月31日（土）の東京歯科大学水道橋校舎新館竣工，記念講演・記念式典・祝賀会に続き，9月2日（月）には，全学年の学生たちに向けて，水道橋校舎新館開校に伴う説明会が開催されました。

真新しい校舎に初めて足を踏み入れた学生たちの歓声の中，血脇記念ホールのシックな客席は，1，2年生および5年生の学生達で埋められました。そして，3，4，6年生は，これから授業が始

まる11階，8階，5階のそれぞれの教室の机に座り，前面の大型スクリーンに映し出される血脇ホールからの中継映像で，開校に伴う説明会に参加しました。最初に井出吉信学長から，水道橋校舎新館の開校について全学生に向けて挨拶があり，「水道橋移転の一番の目的は，君たちが将来歯科医療の生涯学習の場として活用してもらうための場所として水道橋が良いと判断してのこと。この建物は君たちの我が家と思って大切に

使って勉学に励んでほしい。」旨のお話がありました。それに続いて石井拓男副学長より，各学年の代表に水道橋校舎新館開校を記念して記念品が手渡されました。続いて一戸達也副学長から，新校舎の各フロアについての使用法等のお話の後，河田英司教務部長と佐藤亨学生部長より，新校舎での講義・実習や学生生活についての詳細な説明があり，閉会となりました。



第45回全日本歯科学学生総合体育大会夏期大会開催

第45回全日本歯科学学生総合体育大会夏期大会は、日本大学歯学部が事務主管となり、8月1日(木)から8月12日(月)までの日程で、例年を上回る記録的な猛暑のなか関東地方を中心に各地で熱戦が繰り広げられた。本学からは、20部門300名以上の部員が大会に参加し、バレーボール部門・硬式野球部部門が優勝の栄冠を勝ち取り、硬式庭球部門・水泳部門が準優勝、サッカー部門・弓道部門が3位の成績を収めた。獲得したポイントは、132点で、昨年より一つ順位を上げ総合第3位となった。

総合成績

順位	大学名	得点	順位	大学名	得点
優勝	日本大学歯学部	217.00	16位	大阪大学歯学部	37.00
準優勝	日本大学松戸歯学部	169.00	16位	岡山大学歯学部	37.00
3位	東京歯科大学	132.00	18位	岩手医科大学歯学部	35.00
4位	愛知学院大学歯学部	127.00	19位	松本歯科大学	28.00
5位	明海大学歯学部	107.00	20位	日本歯科大学新潟生命歯学部	27.00
6位	九州歯科大学	101.00	21位	北海道大学歯学部	26.00
7位	大阪歯科大学	88.00	22位	神奈川歯科大学	23.00
8位	日本歯科大学生命歯学部	79.00	23位	九州大学歯学部	18.00
9位	東北大学歯学部	62.00	24位	長崎大学歯学部	13.00
10位	鶴見大学歯学部	52.00	24位	鹿児島大学歯学部	13.00
11位	広島大学歯学部	51.00	26位	徳島大学歯学部	12.00
12位	福岡歯科大学	49.00	27位	新潟大学歯学部	8.00
12位	東京医科歯科大学歯学部	49.00	28位	奥羽大学歯学部	5.00
14位	朝日大学歯学部	44.00	29位	北海道医療大学歯学部	
15位	昭和大学歯学部	43.00			

入賞部門の順位とポイント

部門名	順位	Point
バレーボール部門	優勝	20
硬式野球部門	優勝	19
硬式庭球部門	準優勝	16
水泳部門	準優勝	14
サッカー部門	3位	14
弓道部門	3位	12
バスケットボール部門	5位	10
スキー部門	5位	8
剣道部門	5位	7
ゴルフ部門	5位	7
陸上競技部門	6位	5

団体部門入賞成績

部門名	順位
ゴルフ部門男子団体	5位
ゴルフ部門女子団体	4位
サッカー部門	3位
バスケットボール部門男子団体	準優勝
バレーボール部門男子団体	優勝
バレーボール部門女子団体	準優勝
剣道部門女子団体	準優勝
剣道部門男子団体	5位
硬式庭球部門男子団体	優勝
硬式庭球部門女子団体	5位
水泳部門男子団体	優勝
水泳部門女子団体	準優勝
卓球部門男子団体	4位

個人成績 優勝者

部門名	種目名	学生氏名(学年)
スキー部門	男子回転競技	木村 翔馬(118期)
〃	男子大回転競技	木村 翔馬(118期)
水泳部門	男子400mメドレーリレー	加藤 禎彬(4年), 西村 達郎(4年) 齋藤 伸(3年), 山本 圭(1年)
〃	800m自由形	加藤 禎彬(4年)
〃	200m平泳ぎ	齋藤 伸(3年)
陸上競技部門	1500m	谷口修一朗(4年)
〃	800m	谷口修一朗(4年)

個人成績 準優勝者

部門名	種目名	学生氏名(学年)
水泳部門	男子200mフリーリレー	加藤 禎彬 (4年), 西村 達郎 (4年) 齋藤 伸 (3年), 山本 圭 (1年)
〃	男子800mフリーリレー	加藤 禎彬 (4年), 西村 達郎 (4年) 齋藤 伸 (3年), 山本 圭 (1年)
〃	200m自由形	加藤 禎彬 (4年)
〃	200m個人メドレー	西村 達郎 (4年)
〃	200m背泳ぎ	佐藤 令 (3年)
〃	女子400mフリーリレー	野末 雅子 (6年), 喜田 千尋 (4年) 藤森香菜子 (4年), 吉野 早紀 (1年)
〃	女子200mメドレーリレー	野末 雅子 (6年), 喜田 千尋 (4年) 藤森香菜子 (4年), 吉野 早紀 (1年)
〃	女子200mフリーリレー	野末 雅子 (6年), 喜田 千尋 (4年) 藤森香菜子 (4年), 吉野 早紀 (1年)
〃	50m背泳ぎ	喜田 千尋 (4年)
〃	100m自由形	吉野 早紀 (1年)
〃	100m背泳ぎ	吉野 早紀 (1年)
陸上競技部門	5000m	谷口修一朗 (4年)
〃	4×100mR	永井 里歩 (4年), 鷺巣友衣子 (3年) 熊本亜津沙 (2年), 九鬼 ゆり (1年)
〃	走高跳	熊本亜津沙 (2年)



個人成績 特別賞

部門名	種目名	学生氏名(学年)
硬式野球部門	MVP	手束 俊介 (4年)
〃	ベスト9 投手	萩原 光博 (4年)
〃	ベスト9 右翼手	大津 雄人 (6年)
〃	ベスト9 遊撃手	内倉慶一朗 (6年)

支部のうごき

群馬県支部

平成25年度総会・学術講演会

平成25年度の群馬県同窓会総会・学術講演会は、7月6日(土)、群馬県が誇る温泉の一つでもある伊香保温泉きっての老舗旅館「千明仁泉亭」にて開催された。

来賓と講師を兼ねてお招きした宮地建夫本部同窓会副会長から、総会でのご挨拶のなかで群馬県同窓会は、アクティブで熱い会であるとおっしゃられていたが、例年は夏でも涼感のあふれる標高700mにある温泉地であるにも関わらず、この日は会場の外も非常に暑い日であった。

総会の議事として、H24年度の事業報告ならびに一般会計収支決算等の議決が終わった後、黒田

由紀子副会長から若手ネットワークに関してのインフォメーションがなされた。若手同窓生の動向や双方向の情報交換は、未入会者の減少には必要不可欠であり、群馬県としても全面的に協力していくことを確認した。

講演会では、「経過から学んだ、欠損歯列の読み方」として、宮地先生から学術的に裏打ちされた、豊富な臨床経験から咬合崩壊を防ぎ、咬合再建に導く方法についての講演がなされた。本当に、明日からの臨床に繋がる講演内容であったと思う。

また夜は、老舗旅館の美味しい料理と地酒による懇親会。そして伊香保温泉の茶褐色の名湯を堪能



し、非常に有意義で楽しい一日を過ごして、その日は終わった。

さらに学術的な探究心の旺盛な我々は、翌日に前橋の群馬県歯科医師会会館で開催された日歯生涯研修セミナーに出席し、知識欲を満たし帰路についた。

(片野勝司 記)

写真が同窓会ホームページ<<<http://www.tdc-alumni.jp>>>に掲載されています。



埼玉県支部

平成25年度総会

平成25年7月6日(土)、越谷サンシティーホールにおいて埼玉県支部学術講演、総会、懇親会が開催されました。

学術講演は臨床検査病理学講座主任教授 井上 孝先生に『2030年の歯科治療、～再生医療が歯科治療をかえる日～』というテーマで講演していただきました。インプラント治療に代表される骨欠損に対する再生医療の必要性、stem cellを豊富に含んだ歯髄の特徴などを解説頂き、未来の歯科治療の可能性についてご説明いただきました。難しい内容をわかりやすく臨床に結び付けたお話で、大変好評でした。

総会に移り、まずは物故会員に黙祷を捧げました。来賓の同窓会副会長浮地文夫先生には同窓会改

革について、井出吉信学長からは大学の水道橋移転の状況についてご説明いただきました。また、埼玉県歯科医師会副会長の小杉国武先生にもご挨拶をいただきました。続いて野上宏一議長、田原邦昭副議長の下、議事は滞りなく進行しました。『第五号議案 次期役員について』では春山良夫支部長の再任が議決されました。『第六号議案 東京歯科大学創立百二十周年記念事業寄付の件』を含む七議案すべてが賛成多数で承認され、総会を無事終了いたしました。

懇親会は会場を移して行われました。お忙しいなか駆けつけていただいた埼玉県歯科医師会会長 島田 篤先生にご挨拶をいただきました。成田賢二先生の乾杯ご発声にてのどを潤した後、総会で議



春山支部長と新入会員

決された創立百二十周年記念事業寄付の目録が春山良夫支部長から井出吉信学長に早速渡されました。また、明海大学准教授にご就任された坂 英樹先生及び5名の新入会員が紹介されました。綺麗どころが登場、少々お酒も入り年代の垣根を越えた交流を楽しみましたが、そろそろ時間となり、大井誠一幹事長指揮によって校歌を斉唱しお開きとなりました。

(山崎眞司 記)

写真が同窓会ホームページ《<http://www.tdc-alumni.jp>》に掲載されています。



横浜鶴見支部

鶴見東歯会家族レク開催

8月31日（土）午後6時より横浜元町「Bistro BeBe」において17名参加のもと会員・家族・従業員レクリエーションが開催された。

横浜に居ながらにして世界の料理を食べ尽くす第8弾となる今回はフランス料理をカジュアルに楽しむ企画を立てた。

参加者らは開店の6時と同時に深紅と黒を基調にした落ち着いた雰囲気店内になだれ込み、早速飲み放題の瓶ビールがテーブルに運ばれ準備が進められた。

はじめに佐藤秀夫会長が挨拶した後、吉田礎久先生が声高らかに乾杯し宴会がスタート。

赤と橙のコントラストが美しい「パプリカのムースとウニ入りコンソメゼリー」のアミューズにはじまり、眼にも鮮やかな鎌倉野菜

をふんだんに使った「前菜盛り合わせ」を味わいながら瓶ビールをどんどん注文。会話も弾んだ。

「バターナッツ」（カボチャとズッキーニを掛け合わせた野菜）の冷製ポタージュスープは天然の甘みとコクを感じる逸品であった。

「オマール海老とフォアグラのポワレ」がテーブルにサービスされると、かわいい歓声が上がった。参加最年少の小学生は「ぼく、前からフォアグラを食べてみたかったんだ。ラッキー！」と満面の笑みで器用にナイフとフォークを使って初体験の味覚を楽しんでいた。

飲み放題のグラスワインも大変おいしく、グラスワインというよりボトルワインの栓が次々と抜かれ、淡白な白身にソースが絡み合う「イトヨリ鯛のムニエル」には



白、焼き加減が絶妙な「牛フィレ肉のソテー」には赤とそれぞれの料理に合うお酒をチョイスして大いに盛り上がった。

毎年恒例の会員近況報告では、すっかりほろ酔いの参加者それぞれがこの夏の思い出を振り返った。

最後に、夏らしいデザート盛り合わせを食べ終え、窪田 顕先生の閉会の辞のあと全員で集合写真を撮ってお開きとなった。

（宇佐美貴弘 記）



写真が同窓会ホームページ<<<http://www.tdc-alumni.jp>>>に掲載されています。

横浜南部支部



会員・家族レクリエーション開催

横浜市金沢区は古都鎌倉の北方に隣接し、鎌倉時代の史跡が数多く残る歴史の街でもある。ここを走る京浜急行には「能見台」^{のうけんたい}、「金沢文庫」^{おっぱま}、「金沢八景」^{おっぱま}、「追浜」と、由緒ありげな駅名が並ぶ。鎌倉時代、高台の「能見堂」からの風光明媚な眺めが中国の瀟湘八景に似ているところから名付けられ、後年歌川広重の浮世絵によって喧伝された「金沢八景」。学問好きな北条実時が和漢の典籍の収蔵のため、北条氏一門の菩提寺である称名寺に隣接して創設した「金沢文庫」。源 頼朝の長男頼

家が北条氏の追っ手に追いつめられ非業の最期を遂げた海岸だという伝説の残る「追浜」など。いにしえのむかしを駅名が現代に伝える。

このような歴史ある地に身を置きながら、なかなか訪れる機会がなかった横浜南部支部の一行10人は、「鎌倉時代の面影を残す称名寺と歴史の道を訪ねる」という企画で、平成25年8月25日日曜日、金沢文庫駅に集結した。

歴史を尋ねるとはいえ、我々はその方面には全くの素人。如何ともしがたいので、NPO 法人横浜シティガイド協会会員の海野 智

先生（医歯大卒、横浜市大病院口腔外科勤務、横浜市中区開業）にご案内役をお願いした。海野先生は多忙な診療の傍ら同協会の研修を受け、ボランティアで各所のガイドをして休日を過ごしているその道の大ベテランである。

当日は生憎の小雨模様であったが、鬱蒼とした木々に囲まれた国指定史跡の称名寺では、朱塗りの赤門、壮大な仁王門、そして苑池に橋を架けて金堂へ達する美しい浄土式庭園を見ることができた。雨脚が強くなり、金沢文庫入り口のトンネルで小憩。小降りになるのを見計らい金沢歴史の道、寺前八幡宮などを見学した。海野先生の懇切丁寧な案内により、それぞれ理解を深めることができた。

時分どきになったので、金沢区一番の老舗蕎麦屋「越後屋」で名物の鴨しゃぶに、蕎麦を堪能した。そして海野先生から更詳しいお話を伺いながら、楽しいひとときを過ごし、有意義なレクリエーションはお開きとなった。

なお、文中の歴史的記述はすべて海野先生からの受け売りであることを記し、先生に感謝して本稿の終わりとする。（渡邊宇一 記）

写真が同窓会ホームページ《<http://www.tdc-alumni.jp>》に掲載されています。



日本橋支部

夏季懇親会

平成25年7月26日（金）同窓会日本橋支部（あゆみ会）の夏季懇親会が日本橋室町に最近オープンした「豊年萬福」にて行われました。

今夏は猛暑が続いており、当日も蒸し暑い中23名の出席者があり午後7時より懇親会が開催されました。

仲谷清孝先生（S55年卒）が司会を担当、山 滋支部長（S54年卒）があゆみ会の活動などの挨拶、続いて本日参加者最年長である三宅直晴先生（S23年卒）の乾杯の音頭により懇親会が始まりました。



山 滋支部長の挨拶



三宅直晴先生の挨拶・乾杯

今回は6月より代わった公益社団法人お江戸日本橋歯科医師会の役員に、あゆみ会から新しく加わった4名の会員の紹介・挨拶が行われ、続いて諸先輩方から激励のお言葉を多数頂きました。

日頃は近くで開業しているにも

関わらずあまり顔を合わせる機会が少ない同窓の先輩・後輩が大学移転の話から子弟の近況、医院や臨床の相談など同窓だからこそ分かり合える話で大いに盛り上がり、楽しい2時間はあっという間に過ぎて懇親会は閉会となりました。

最後のデザートはお店側の配膳が遅くなり、半数近くが店を出てしまった為甘党が1人で2個3個平らげるハプニングもありました。



学術講演会

平成25年9月20日（金）午後7時より口腔インプラント科教授・水道橋病院院長である矢島安朝先生を迎えて講演会が開催されました。

演題は“社会的評価再構築のために「インプラント医療を通して歯科医療の未来を考える」という最近のトピックスにあったものでした。



山 滋支部長挨拶に続いて講師略歴が紹介され講演が始まりました。

講演会は冒頭に水道橋新病院や新校舎のスライドに始まり、病院システムの案内をお聞きしました。

水道橋病院の昨年度の新患者数は千葉病院よりも多いというのには驚きましたが、「患者中心の医療」や「根拠に基づいた医療」を実践し「21世紀型歯科大学病院」を構築するために病院長として役割を果たしていきたいということでした。

後半は「インプラント治療に対する社会的評価の変化」についてトラブルやリスクファクター等を解説していただき安心・安全なインプラント治療を目指し、インプラント治療による国民の健康増進を推し進めていきたいという内容でした。

水道橋病院院長の講演という事もあり普段から交流のある京橋支部からも多数の会員が参加していただき、最後に同窓会名誉会長の大山萬夫先生（京橋支部）にご挨拶を頂き講演会は終了、懇親会に会場を移しました。



（福井雅之 記）

新潟県支部

平成25年度支部総会

去る6月29日(土)、長岡市「ホテルニューオータニ長岡」に於いて今年度の新潟県支部総会が開催され、今回は昨年11月に旭日双光章を叙勲された上越市の佐藤昭雄先生のお祝いも兼ねておこなわれました。新潟県支部37名の参加があり、ご来賓として矢崎秀昭同窓会会長、母校より齋藤 淳歯周病学講座主任教授にお越しいただきました。

岡田泰幸先生の司会で始まり、小千谷市の鈴木義隆先生が議長に選出され、阿部晴弘信越地域支部連合会会長の挨拶が行われました。続いて、旭日双光章を叙勲された佐藤先生に賞状と記念品が

阿部会長より授与されました。矢崎先生より、若手会員への支援を目的とした若手ネットワークの説明と母校の現状についての説明がありました。齋藤教授からは、さいかち坂校舎での学生生活と水道橋移転の現状説明、今年度の国家試験、入試状況について報告をいただきました。引き続き庶務報告、物故会員へ黙祷を捧げた後、議事協議に移り、来年の信越連合総会は糸魚川市『ホテル国富翠泉閣』での開催が承認され閉会いたしました。

引き続き、歯周病学講座主任教授の齋藤 淳先生より『炎症としての歯周炎が全身に及ぼす影響』の演題で学術講演が行われまし

た。

記念撮影の後、懇親会に移りました。山田潤造先生の司会のもと阿部晴弘先生の開会の挨拶、ご来賓の挨拶と続き、佐藤昭雄先生の乾杯の発声で宴が始まりました。今年は女性会員と齋藤教授曰く『新人類』世代の平成卒の先生方が多数出席され、一段と華やいだ雰囲気の中で会員相互の親睦を深めました。毎年恒例の八百枝正樹先生の指揮で校歌斉唱し万歳三唱で名残惜しいなか終宴となりました。その後、ホテル内の『バー辛夷』に場所を移し、終電の時間が迫りお開きとなりました。

(加茂芳江 記)



掲示板

*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも記載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日時	演題及び講師 又は事業内容	会場	主 催 連 絡 先	外部より 参加可否
学術講演会 平成25年 12月7日(土) 午後3時～5時	「小児期・青少年期の 発育審美歯科」 細矢由美子先生 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究 科小児歯科学 准教授)	熊本県歯科医師会館 (当日は催事が重複してお り、お車での来館ができ ません)	熊本県支部 連絡先 担当・松田光正 TEL 0969-22-2432	歯科関係 (歯科医師)

愛知県支部

平成25年度学術講演会

平成25年7月7日（日）午後2時より、愛知県歯科医師会館にて愛知県同窓会学術講演会を開催しました。今年は梅雨が短く、連日蒸し暑い日が続いておりましたが、41名の同窓及び他大学から18名、合わせて59名の先生に出席していただきました。講師には、歯科保存学講座の加藤広之先生をお招きし、「Endoの兵法～合理的な根管での戦い方を考える」と題してご講演いただきました。この演題は、『歯界展望』に掲載されてご存知の先生も多いと思いますが、孫子の兵法の中の“知彼知己者百戦不殆 不知彼而知己一勝一負…”から、相手を知り、自分を知ること、つまり歯内療法においては、相手となる根管を知り、自分の治療技術を知ることから戦いが始まるのだということを表しているとのこと。自分の治療技術を

過信し、行き当たりばったりの治療をしている我が身としては、襟を正さなければいけないという気持ちになりました。

講演内容は、戦いの相手となる根管形態を把握するために、基本的な根管の標準形態を知ること、根管の分岐の分類及びX線画像から分岐の形態を予測する方法、根管口を観察するためのポジショニングとライティング、プレカーブを付与しての根管探索の仕方、アピカルシートの基本設計と切削方法など他にも盛りだくさんの臨床に直結した内容で、ユーモアのある軽快でわかりやすい語り口につられて、会場は笑い声で包まれながらあっという間に有意義な時間が過ぎていきました。また、NiTi ファイルに関する話題も提供され、各メーカーを使用してみたいの感想や新製品の紹介も大変参考になりました。思えば、自分が

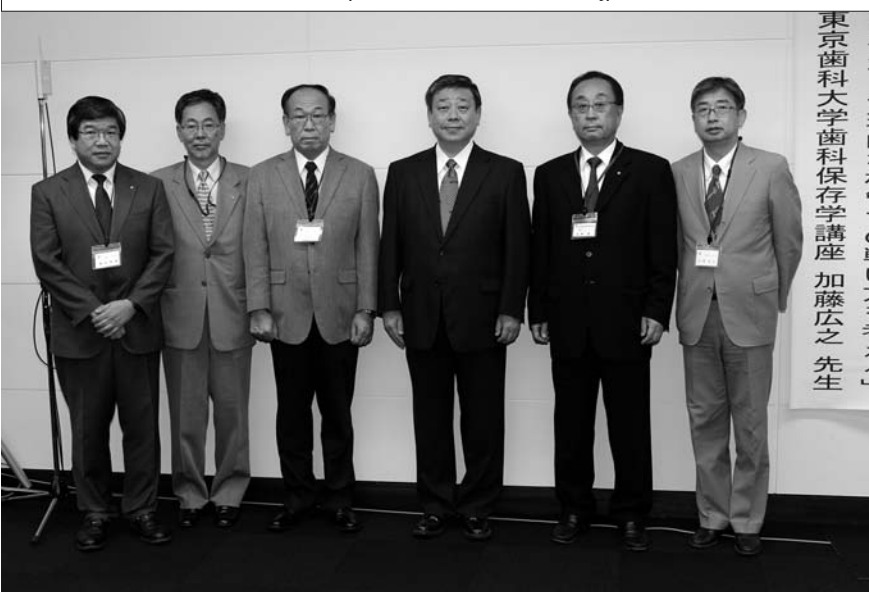


若かりし頃は、Endoの講習会が少なく、なかなか受講する機会がなかったように思いますが、NiTiファイルの出現以来、Endoの講習会が増えてきてとてもありがたいことです。願わくは開業した頃の頃に今日のような講演会を聞いていればもっと臨床のレベルが上がっていたかも、というのが率直な感想です。この事を加藤先生に伺ったところ「Endoの世界も日進月歩、常に新しい知識・技術が生まれていますよ」といわれ、これからも歯科医師を続けていく限り常に新しいことを勉強しなければいけないことを痛感しました。

講演終了後は会場をアパホテル名古屋錦に移動し、24名の同窓が集まり、講師を囲んで懇親会を開きました。そこでも講演会会場の良い雰囲気が続き、和気あいあいとした中で有意義な時間を過ごすことができました。

写真は、左から橋本雅範専務理事・辻川雅介副会長・杉浦正人副会長・講師の加藤広之先生・成瀬健会長・久野昌士学術担当専務理事です。（竹内英樹 記）

写真が同窓会ホームページ《<http://www.tdc-alumni.jp>》に掲載されています。



愛媛県支部

夏のレクレーション開催

7月29日（土）恒例の東歯大愛媛県支部、友好同窓会の夏のレクレーションが八幡浜で行われました。例年なら40名ほど集まれば十分な参加者というところ、0歳から70歳後半まで総勢82名という沢山の同窓及び家族にお越しいただきました。

宴会場所は、東京青山、六本木にあるイタリア料理の名店“サバティーニ”で修業したシェフの2号店、“アマルフィ”（このシェフは20数年前に八幡浜にイタリア料理の店を出し、スパゲッティといえばナポリタンとミートソースぐらいしか知られていない多くの八幡浜人にカルパッチョ、カルボナーラ、ラザニアなどを知らしめたシェフ）です（皆様一度おいで

ください）。

宴会は横山洋行会長、兵藤正昂副会長、宮部英明当番理事の挨拶の後、久保田 晃先生の乾杯により始まり、ビール、ワインを片手に料理、話に盛り上がりました。宴会中には、同窓会本部が始めた、卒業生の同窓会離れを減らす為の「若手支援プロジェクト」を開始する話をし、愛媛では平成10年卒業の大洲支部兵藤先生を中心にこれから支援（交流）を行う報告をし、出席されていた現在愛媛在住の4人の先生（松木雄二郎、三好耕平、加藤博智、横山麻衣先生）に宇都宮慎児先生からの激励の挨拶と高岡元文先生の作った、「I ♥ TDC」のTシャツをプレゼントしました。

思った以上の子供の食欲に、料



4人の若手先生

理のはけるスピードが速くゆっくり存分に食べられなかった先生もいらっしやっただと思います。物足りなかった先生方ごめんなさい。一次会の後二次会は、飲む方、八幡浜のB級グルメのちゃんぽん食べたいという先生とに別れ八幡浜の夜を満喫していただきました。

翌日、日曜日は観光組、ゴルフ組と別れました。東歯の同窓ゴルフコンペは夏冬ともに悪天候に見舞われることが多くこんなに良い天気は滅多にありません（でも暑くて暑くてたまらない）。水分補給しながら酷暑に負けず全員無事回り切りました（ゴルフ2回目の〇〇〇子さんご苦労様よく頑張りました）。優勝者はダブルペリアでの強運の持ち主、大久保忠教先生（県歯会長杯でも優勝経験あり）、2位は矢野興一先生でした（スコアはそれぞれ散々だったため報告しません）。

来年も、たくさんの方との交流楽しみにしております。

（高岡裕司 記）

写真が同窓会ホームページ<<<http://www.tdc-alumni.jp>>>に掲載されています。



こんなに大勢集まりました

クラス会だより

飛 翔 会

昭和46年卒

平成25年7月13日(土)8日連続しての熱帯夜が続いていた名古屋の名鉄グランドホテルに於いて、今年の飛翔会が開催されました。今回は時期的に参議院議員選挙の最中だったとは言え、昨年7月7日に横浜メルパルクで開催された時の参加会員に比べて、いささか見劣りする参加人数でしたが、今回初参加の会員や昨年不参加だった会員の参加もあり、幹事を担当して反省点も多く有りましたが、ややほっとした気持ちにもなりました。酔う前に集合写真を撮り(大阪の浅野君間に合わずゴメンなさい)昨年の7月7日以降に亡くなった3名の逝去会員に対して黙とうをささげた後、乾杯の発声は札幌から参加した松岡君にお願

いして、宴会に入りました。卒業後41年も経つと、流石に話題の内容もそれぞれが抱えている健康問題やら世代交代して仕事を減らしている事などの近況報告が大多数を占め、この時ばかりはタイムスリップして学生時代に帰ったかのようで、あっちのテーブルこっちのテーブルと声が行き交って盛り上がってましたが、それに加えて、今回の幹事の下手際も酒の肴に加わり、気が付けば、予定していた時間も過ぎ2次会になだれこみました。さて気になる次回の飛翔会の件ですが、母校の都内回帰と会員の中でも卒業以来、特に地方出身者は、自分も含めてですが、4年間通っていた水道橋周辺を各自散策しつつ、新しくなった

母校の見学も兼ねた飛翔会にしてはとの幹事を含めた意向を出席者の総意として、会員の中でも信頼厚い長野の小池君を介して、東京の会員にお願いするよう申し送り今年度の飛翔会は散会しました。

追伸 今回参加した会員の皆様、大変ご迷惑をお掛けしました、お詫び申し上げます。東京での次回開催の件小池君から連絡が有ったらぜひお引き受けください。今回の開催に際しては岐阜の中島君、そして、前回の幹事だった横浜の岩本君の多大な協力なしにはスムーズな運営は成し遂げられませんでした、そしてもちろん当日参加した会員全員の協力もです、どうも有り難うございました。

(山田 有 記)



平成会

平成1年卒

第7回平成会開催

平成25年7月14日(日)、北海道札幌市で第7回平成会が開催されました。5年前の東京ドームホテルで開催された第6回平成会の際に、次期クラス会実行委員長として選出された巢山 達君をはじめ、北海道出身の方々が幹事となり札幌パークホテルという素晴らしい会場を設定してくださいました。連休中の日程にもかかわらず、全国から29名の同期生が集まりました。今回、学生時代副主任でありました来賓の佐藤 亨教授も早朝のゴルフ大会から参加していただき、大変盛り上がりました。

まず、総会をおこない会長挨拶、庶務報告・会計報告の後、

川越会長から執行部の一新を提案されましたが、5年後に東京で予定される次期クラス会まで留任し、山本啓太郎君、高柳篤史君を新たに執行部に加え、卒後30周年記念大会を開催することを決定いたしました。

総会終了後に講演会を開催し、佐藤 亨教授による『東京歯科大学の現況』という講演を聴き、もうすぐ完成・移転する新水道橋校舎の現況を目にすることができました。また今後の水道橋校舎周辺の開発についての話もあり進化する東京歯科大学の今後が楽しみでした。

また活躍している数名の同期生

による講演会も開催し、皆熱心に耳を傾けていました。私達も卒業して25年目を迎え中堅というよりベテランの域に入ってきたと思います。それぞれの分野で活躍している同期生をみると励みになります。

講演会終了後懇親会を行いみんな楽しい時を過ごしました。2次会もイタリア料理店を設定していただき、みんなで大いに盛り上がりました。その後、2次会会場を後にそれぞれ夜の街に消えて楽しく飲み明かしたようです。

なお、総会前に早朝から小樽カントリー倶楽部でのゴルフ大会では前島君が優勝、山崎君がベストグロスでした。(田 昌文 記)



クラス会開催日程

いづみ 会 (昭和23年卒)

と き 平成25年11月21日(木)

と ころ 浅草ビューホテル

翔 蜻 会 (昭和55年卒)

と き 平成25年11月3日(日)

と ころ 飯田橋 ホテルメトロポリタンエドモント

OB会・グループ・サークルだより

杖痕クラブ

平成24年度定期総会報告

梅雨明け早い今年、紫陽花の花が輝く、箱根強羅・静峰閣照本にて、7月6日開催。照本は、箱根でも珍しい種類の温泉が出て、透明な単純泉とにごり湯の硫酸温泉が楽しめる宿としても有名で、遠方より出席して頂いた部員も、湯を楽しんで頂きました。毎年7月に開催される総会の為、クラブ員は全国より集合します。北は福島より加藤喜代次先生。南は熊本より御婦人同伴された福嶋修治先生です。

現在クラブ会員81名のうち24名が出席。本多会長の挨拶に始まり、山口勝康先生を議長として、総会を開催しました。24年度の事

業報告、25年度の事業計画の承認が行われました。山岳部OBとしては、現役学生の援助他、会員名簿の発行、253号になる杖痕ニュースを発行し、クラブの連携を図っています。新幹事に大鶴洋君（昭60年卒）笠原正貴君（平7年卒）が推薦され、廣内英智君の入会が、承認されました。

学生の山倉君より山岳部の現状の報告がありました。そして大塚弘介先生の閉会の辞にて、来年も皆様が、元気に集合できる事を祈念して閉会。総会終了後、還暦祝賀会に移り、都合により欠席した諸星裕夫君の他、西井和彦君と茂木元介君の3名に対して、クラブより真紅のウィンドブレーカー



還暦の二人と特注のT-シャツを持ってきてくれたS51年卒の先輩の福島先生の奥様

が贈られました。西井・諸星・茂木の3名が、入部した時にリーダーだった先輩、朝波雄二先生、森田芳和先生、福嶋修治先生より祝辞を頂きました。また佐々木康之先生から、ヒマラヤ報告がありました。

（昭和53年卒 茂木元介 記）



MLS OB会

東京歯科大学 MLS OB 会が、去る平成25年7月14日札幌ライブハウス『Slow Down』にて開催された。遠く四国より参加の吉良公仁先生、ご夫婦で参加の富士田先生を含め総勢13名の参加があった。海の日で14日、15日と連休のこともあり、多くのOB、OGが2泊し北海道の初夏の清々しい空の下、観光やゴルフを楽しまれた。

OB会に先立ち14日午前中、北海道の東歯OB合田和生先生の紹介により、名門小樽カントリークラブにて黒河宏之先生、山口哲生先生、船本能教先生、富士田隆先生、筆者でラウンドした。偶然、平成元年卒の平成会のクラス会が同じ日程で札幌で開催されており、その先生方が1組前の組でプレーされていた。当時、副主任

でいらした佐藤亨教授もプレーされていて一緒できた。

『開陽亭 すすきの店』にて宴会を行った。東京では白濁して見えるイカが透明なのに驚いた。前日より寿司、すすきのでカラオケ、翌日ゴルフ、ジンギスカンそして海鮮と、本番のライブハウスでの演奏を前に「OB会はもう満足」感が漂う中、北海道OB会の主催者である船本能教先生より「俺たちはゴルフ部じゃないんだからゴルフやって満足してちゃだめだ、MLSなんだから演奏しないと」と喝をいただきライブハウスへと会場を移動した。

ライブハウスでは、石岡豪一先生が「呪われた夜」をシャウトし、佐藤光太郎先生のメリージェーンがすすきのの夜にこだま

した。川野壽彦先生は満面の笑顔でドラムを叩き、一緒にいらした奥様より「あんな嬉しそうな顔を見たことない」とのお言葉をいただいた。ブルーラグーンで福岡博史先生のギターと坂井恵美先生のキーボードが絡み合い、定番カリフォルニアドリーミンで全員がハモリ、15曲の演奏を終えた。

萩原功先生、山田勝久先生は翌火曜日まで滞在し、さらに北海道を満喫した。

微妙にずれて北海道に来たOB、OGの4日間にわたる観光、ゴルフ、グルメ、バンドの予約、案内、車の運転などをしてくださった札幌の船本能教先生にはこの場をお借りし、改めて感謝申し上げます。

(昭和60年卒 宇梶常幸 記)



東京歯科大学管弦楽団

第36回定期演奏会

2013年7月28日に、東京歯科大学管弦楽団の第36回定期演奏会が千葉校舎講堂にて開催されました。本年の曲目は、前半にA. ドヴォルザーク作曲のチェロ協奏曲口短調 op. 104, G. ビゼー作曲劇付随音楽「アルルの女」第1組曲が演奏されました。休憩を挟んで、後半にはR. ワグナー楽劇「ニュールンベルグのマイスタージンガー」より第1幕への前奏曲が演奏されました。指揮者には、昨年同様、直井大輔先生、チェロ独奏には木下通子先生になさっていただきました。例年11月に定期演奏会を開催しておりましたが、今回は学生の教育の場が9月より水道橋に移転するため、定期演奏会を7月に開催する運びとなりました。

チェロ協奏曲は、ドヴォルザークの3つの協奏曲作品（ヴァイオリン、ピアノ、チェロ）の中で最も親しまれている作品です。「望郷の念」が詰め込まれた哀愁のある名旋律に満たされた曲です。

「アルルの女」は、ビゼーの作品の中で歌劇「カルメン」と並んで有名な曲で、ドーデの同名の戯



曲の付随音楽として作曲されたものです。

「ニュールンベルグのマイスタージンガー」は、悲劇的作品が多いワグナーの作品の中で残り少ない喜劇的作品です。特に第1幕への前奏曲は、ワグナーの楽曲の中でよく親しまれ、祝祭的なイメージから式典などでよく演奏される曲です。

今回は、例年より演奏会の時期を7月に早めたため、現役部員は例年以上にこれらの曲目を練習したことと思います。また、単科大学では管弦楽として各楽器が揃わないため、例年と同様に医科系学生や近隣大学の方々が、エキストラとして多く参加して下さいました。今年も大勢のOBの先生方が演奏会に参加されました。このような形ではありますが、千葉の講堂で歯科単科大学の管弦楽部として



演奏会を毎年継続できたことは非常に価値があったことだと思います。水道橋移転に伴い、今後の定期演奏会開催の場所の確保、練習場所の確保、エキストラの確保等、課題が出てきましたが、今後の演奏会が継続できるよう、可能な範囲でOBの先生方が協力していただければと思いましたが、今回の演奏会は、炎天下の猛暑の中の開催でしたが、講堂の全客席が埋まるほどで、立ち見の方が出るくらい、今までで最も盛大な演奏会となりました。これは、管弦楽部の定期演奏会が大学周辺の地域に定着し周知されるようになった顕れだと思います。アンケートにも、大学移転に伴い千葉校舎講堂での演奏会を名残惜しむ内容が多数書かれておりました。

演奏会終了後は厚生棟にて懇親会が催され、現役部員、OBの先生方、エキストラの方々等、多数の方々が出席されました。多胡彬OB会名誉会長よりご挨拶及び乾杯の挨拶をいただき開会しました。懇親会は和やかな歓談で進行し、現役部員の幹事と次期の幹事紹介がされ、お開きとなりました。（平成7年卒 田中大平 記）



庶務日誌

- 9月
- 1) 理事会
- 9月14日(土) 第4回理事会
- 2) 委員会
- 9月3日(火) 事業推進部学術委員会(研究部)
- 4日(水) 事業推進部(企画会議)
- 5日(木) 学術事業交流についての協議会
- 5日(木) 事業推進部保険委員会
- 6日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 9日(月) 広報部広報委員会
- 9日(月) 事業推進部学術委員会(企画)
- 10日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 11日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)
- 17日(火) 同窓会・会務運営協議会
- 19日(木) 会員管理システム検討委員会
- 24日(火) 同窓会創立120周年記念事業準備委員会
- 24日(火) 総務関係打合せ
- 26日(木) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 27日(金) 事業推進部(保険委員会 全国社会保険指導者懇談会・懇親会)
- 27日(金) 東京歯科大学・同窓会広報連携打合せ
- 30日(月) 事業推進部若手ネットワーク委員会
- 3) 出張
- 9月1日(日) 関東地域支部連合会支部長会・総会(千葉県支部担当)
矢崎会長, 佐瀬副会長,
高橋専務理事, 財部常任理事,
杉山理事出席
- 7日(土) 北海道地域支部連合会総会
浮地副会長, 臼井常任理事,
佐藤理事出席
学術講演会 講師・水口 清教授(母校)
- 12日(木) 日本歯科医師会創立百十周年を祝う会, 日本歯科医師会・日本歯科医師連盟役員披露パーティー
宮地副会長出席
- 21日(土) 北陸地域支部連合会支部長会・総会(石川県支部担当)
矢崎会長, 寺田常任理事,
加藤理事出席
学術講演会 講師・一戸達也教授(母校)
- 25日(水) 京橋支部学術講演会 講師・山本仁教授(母校)
- 29日(日) 東海地域支部連合会総会(愛知県支部担当)
矢崎会長, 財部常任理事,
太田理事出席
学術講演会 講師・安井信久先生(愛知県弁護士会会長)
- 4) 事業
- 9月12日(木) 同窓会主催全国ゴルフ大会(横浜カントリークラブ)
- 29日(日) TDC 卒後研修セミナー2013 卒研セミナーNo.3 実習セミナー1「ゼロから学ぶセファロトレーシングと症例分析」3
- 10月
- 1) 理事会
- 10月12日(土) 第5回理事会
- 2) 委員会
- 10月3日(木) 事業推進部学術委員会(研究部)
- 4日(金) 渉外部渉外委員会
- 4日(金) アカデミア構想準備委員会
- 7日(月) 事業推進部(企画会議)
- 9日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)
- 10日(木) 広報部広報委員会
- 15日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)
- 22日(火) 同窓会・会務運営協議会
- 22日(火) 事業推進部学術委員会(企画)
- 28日(月) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)
- 28日(月) 総務関係打合せ
- 29日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 31日(木) 同窓会創立120周年記念事業準備委員会

3) 出張

10月5日(土) 信越地域支部連合会総会(長野県担当)

矢崎会長, 高橋専務理事,
阿部理事出席

学術講演会 講師・千葉光行先生
(前市川市長)

10日(木) 下谷支部学術講演会 講師・井上
孝教授(母校)

19日(土) 九州地域支部連合会支部長会・総会
(鹿児島県支部担当)

矢崎会長, 蛭谷常任理事,
田部理事出席

23日(水) 東京地域支部連合会江東地区役員連
絡協議会 小池常任理事出席

学術講演会 講師・小池 修先生
(東京都開業)

26日(土) 全国歯科大学同窓・校友会懇話会
矢崎会長, 宮地副会長,

臼井常任理事出席

27日(日) 東北地域支部連合会支部長会(山形
県支部担当)

高橋専務理事, 高橋理事出席

4) 事業

10月13日(日) TDC 卒後研修セミナー2013 卒研
セミナーNo.4 臨床セミナー「歯科疾
患!! どこから手をつける?」～病態
の理解とタイプ別臨床診断・治療計
画～

訂正とお詫び

会報「392号」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

P1 巻頭言 左段下から3行目

誤：診療報酬の22年度改定

正：診療報酬の24年度改定

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福を
お祈り申し上げます。(敬称略・届出順)

●昭 30 卒	渡 辺 郁 夫 (82歳)	東京都江戸川区	25. 8. 1
●昭 38 卒	関 本 英 雄 (75歳)	茨城県取手市	25. 8. 15
●昭 35 卒	足 立 晟 (77歳)	静岡県浜松市	25. 8. 15
●昭 34 卒	大 友 好 (79歳)	東京都目黒区	25. 8. 22
●昭 45 卒	山 崎 聰 (69歳)	山形県米沢市	25. 8. 29
●昭 46 卒	青 木 絃 一 (70歳)	島根県松江市	25. 9. 10
●昭 45 卒	山 崎 博 道 (67歳)	千葉県千葉市	25. 9. 9
●昭 12 卒	伊 奈 敏 生 (99歳)	東京都世田谷区	25. 9. 5
●昭 24 卒	加 藤 正 照 (87歳)	岐阜県各務原市	25. 9. 14
●昭 48 卒	伊 藤 和 明 (65歳)	愛知県名古屋市	25. 9. 14
●昭 31 卒	角 田 昭 一 (84歳)	静岡県静岡市	25. 9. 21
●推 薦 会 員	山 崎 可 夫 (87歳)	千葉県市川市	25. 3. 4
●昭 45 卒	田 中 徹 (68歳)	栃木県宇都宮市	25. 9. 23
●昭 28 卒	坂 田 三 弥 (88歳)	東京都中野区	25. 9. 19
●昭 55 卒	前 岡 一 夫 (59歳)	愛知県一宮市	25. 9. 26
●昭 23 卒	市 川 博 保 (88歳)	埼玉県朝霞市	25. 9. 21

◆投稿規定

※平成24年度より、偶数月発行から年間5回（2，6，8，10，12月）の発行になりました。

- (1) 原稿締め切り
原稿の締め切りは、発行前月の10日までとし、原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は1行15字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ（2Lなど）で集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (4) 写真等の返却
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真の場合は、その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

(5) 投稿字数

投稿欄	内容	文字数, 備考
追悼	故人の追悼文	600字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想, 詩, 短歌, 時評など	1編1,700字程度（1ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや、取り止めのない随筆はご遠慮いただき、出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		1ページ1,700字程度（1ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に文字数を減らしてください。 全員の集合写真は720字に相当、会場風景や大勢のスナップ写真は360字相当、数人のスナップ写真は120字相当で掲載します。 尚、同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ

<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧下さい。

投稿送付書

郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し、同封をお願いします。

お名前（漢字）		フリガナ	所属支部	支部
卒業年数（どれか1つ）	（昭和・平成・西暦） _____ 年卒 / _____ 期卒			
住所（自宅・勤務先）	〒 _____			
電話番号（自宅・連絡先）	-	-	FAX 番号	-
投稿先 <input type="checkbox"/> に <input checked="" type="checkbox"/> 印チェック	同窓会会報	<input type="checkbox"/> カラーグラビア	<input type="checkbox"/> 追悼	<input type="checkbox"/> 支部のうごき <input type="checkbox"/> すいどうばし <input type="checkbox"/> いなげ <input type="checkbox"/> クラス会だより
貼付写真枚数	枚			
その他ご希望	（例 写真の順番・重要度など）			

いいんかいしょうかい

事業推進部シンクタンク委員会では、社会情勢の変化に対応するため、歯科医療や生涯研修のあり方を制度面から考えて提言を行うことを目的とした委員会です。とりわけ、超高齢社会を迎えた現在、歯科医療においても様々課題が山積しております。委員会では、委員のみならず、歯科医療制度に関する様々な分野で活動されている多くの同窓の先生方にもご参加いただき、多様な視点からの情報収集とディスカッションを行ってまいりました。そして、卒研フォーラムの開催や同窓会報等を通じて、同窓の間で、広く情報の共有を図ることを行っております。本年度の同窓会フォーラムでは、「歯科医療のパラダイムシフト」をテーマとして「チェアサイドでの口腔機能評価と機能向上を積極的に組み込むこと」を提案してまいりました。

同窓の皆様には、今後とも、多くのご意見やご指導をいただきますようによろしくお願いいたします。

シンクタンク委員会委員長 高柳篤史



いいんかいしょうかい

昨年度より大学連携委員会が立ち上げられ、在学生に認知してもらうように、「同窓会はどんなことをしたらいいか？」を主体に大学との連携について検討しております。本年より、大学の了承もいただき、在学生を会費のない準会員とすることも決まりました。昨年は、一部の在学生県人会にお邪魔して、同窓会の簡単な紹介をさせていただきました。また、出身地域の同窓会支部などを紹介できるように、若手ネットワークとも連携して、今後の連携も模索しております。近年、歯科関係の親族のいない在学生も増えてきていると聞いておりますので、同窓会地域支部の若手ネットワーク担当の方々にもご協力いただき、在学中や卒業時の相談など、お手伝いすることも考えております。大学の水道橋移転後、更なる進展を期待して連携強化を考えて参ります。

大学連携委員会委員長 加藤賢祐



◆へんしゅうこうき

★ 毎月一回水道橋校舎に通うようになって何回目になるのか、診療をいつもより一時間早く終わらせ、東西線で九段下まで行き、水道橋までのんびり歩くのがいつものルート。

気分転換にはちょうど良い散歩で、コースを色々変えて水道橋の街並みを見ながら大学に向かう、診療を切り上げてきているせいかもしれないが、楽しい気持ちになる。会議が終われば必ず後席があり水道橋のお店に連れて行っていただけるのも理由の一つだろうか。もちろん広報委員会の会議も苦にはならない、というより興味深い話もたくさん聞く事ができる。先月の広報委員会で学生が校歌を作ってもらうために北原白秋に何通も手紙を書き、直接頼みにいった話が出た。そう言えば、母方の祖父が頼みに行ったというのを聞いたことがある、本当だったのかと少し驚かされた。両親の話はどうも胡散臭いところがあるのだ、電車でシェーデルを転がして警察に連れて行かれたとか、腕が腐りかかり明日腕を切り落とすと言われヤケ酒飲んで朝目が覚めたら治ったのだ、あまり信用していなかった。この会議に出ると亡くなった東京歯科卒の祖父、叔父、父のことを思い出すことが多い。父が亡くなってから何年も経つが、今年は珍しくお盆の混雑している時期に四国松山に帰省することにした。一向に進まぬ遺品の整理も目的の一つではあったが、墓前にもご無沙汰で、いまだに親不孝をしているからだ。墓参りは大体一人でフラッと立ち寄って「帰ったよ」と言い、周りを掃除して「帰るね」と立ち去るだけ、少し後ろ髪をひかれる感じもするが振り返らず帰る、両親が健在のときも似たようなものだった。

松山空港に着くといつも感じるのだが「暑い」のだ。しかし、今年は東京も負けてはいなかった。実家まではタクシーで20分程度大体2千円で御釣りがくる。家の周りはビルだらけ、手入れのされていないジャングルの様な庭と木造の家は今やシロアリのエサだ。歯科医院だった玄関は古い両開きのガラス戸でレトロなタイル張りの下足場があり祖父がまだ診療をしていた時は沢山の靴とスリッパが雑然と並んでいたのを思い出す、広い待合室があり、長椅子と火鉢はまだ残してあった。受け付けは小窓があるだけだが今見るとなかなか良いシステムかもしれない。診療室も同じぐらいの広さで大きな无影灯がついていて、足で座面を上げるタイプの診療台が2台並んでいた。悪戯をしてよく怒られたものだ。今はもう置いていないこの場所は父の書斎となっていて、よく床が抜けないと感心するほど本が詰め込まれていた。引き出しの中はとにかくものが多く何でも残してある。半世紀前のエアメール、写真、スライド、研究レポート、壊れたカメラ。一度出すと二度と元に戻すことができず、まるでパズルのようだ。休む間もなくゴム手をはめ戦闘開始。しかし、容易な戦いではない。古い本や雑誌を見つけては、ついつい見入ってしまう。心を鬼にして廃棄の山に誰が書いたかわからぬ研究ノートを放り込む、敵も沙流もの、次々に思い出の品や珍しい本を繰り出してくる、古い大学資料・昭和40年国民衛生動向・短波ラジオ歯科医の時間のレコード、ガリ版印刷の衛生学会旅のしおり。じっくり見てみたい気持ちを抑え突撃あるのみ、廃棄処分をしながら、山を見つめ妹に「この山もう少し取っという」と言い残り帰路についた。今回も大敗であったが、次回じっくり目を通す楽しみができた。

今月もまた、九段下から水道橋まで歩く、楽しみはやはりあの後席だ、先輩、後輩との話をつまみにおいしいお酒飲む、少し痛風の左足が痛むのだけだ。

(西村哲雄 記)

広報部広報委員会

委員長 白田 準
副委員長 福井 雅之
山口 雅史
委員 古澤 成博
佐々木 葉子
志村 圭子
渡邊 宇一
島田 篤
西村 哲雄
佐佐美 貴弘
小貫 飛鳥
横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成25年10月20日 印刷	発行人 小 池 修
平成25年10月25日 発行	編集人 白 田 準
東京歯科大学同窓会会報 第393号	東京歯科大学同窓会
同窓会ホームページアドレス	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18
http://www.tdc-alumni.jp	電話 (03) 5275-1761
	FAX (03) 3264-4859
	印刷所 一世印刷株式会社
	〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22
	電話 (03) 3952-5651 (代)